



The North American
(NADTA)

Drama Therapy Association

Handbook of Alternative Training
In Drama Therapy
for
Alternative Training Students and
Board Certified Trainers (RDT/BCT)

Translated into Japanese in
Aug. 2014 by:
Akeyo Onoe, RDT/BCT
Rie Negishi, RDT
Masako Iguchi, RDT
Sachiko Nakano, RDT

北米ドラマセラピー学会

Alternative Training (ドラマセラピー修士課程設置大学院以外でのトレーニング、
以下「別ルート・トレーニング」) 受講生と
北米ドラマセラピー学会認定トレーナー (RDT/BCT) のための
ハンドブック

NADTA

1450 Western Avenue, Suite 101, Albany, New York 12203

<http://www.nadta.org/>

電話 : 888. 416. 7167

ファックス : 518. 463. 8656

2009年3月1日 改定

翻訳者 (2014年8月)

RDT/BCT 尾上 明代

RDT 根岸 理恵

RDT 井口 雅子

RDT 中野 左知子

目次

序文と歓迎の言葉	III
ドラマセラピー別ルート・トレーニング (AT) の基本	
ドラマセラピーとは何か?	1
AT の表	2
AT : 該当するトレーニングとそれに該当しないトレーニングについて	3
すぐ分かる : AT 受講生の手引き	4
公認に関する重要な情報	7
州の開業免許に関する重要な情報	7
AT のカリキュラム : ドラマセラピー	10
ドラマセラピー科目リスト	10
ドラマセラピー科目の説明	13
AT のカリキュラム : 心理学	19
心理学科目のリスト	19
心理学科目の説明	21
スーパービジョンを要するドラマセラピー・インターンシップ	23
インターンシップの情報	
ドラマセラピーインターンシップ時間数の記録様式	25
ドラマセラピーインターンシップの評価様式	26
スーパービジョンのためのビデオ撮影承諾書様式	28
NADTA の AT 学習受講契約	29
すでに履修・経験した分の単位	31
AT 契約の見本ページ (例)	
BCT と受講生間の時間当たり費用契約書様式	33
AT 契約の見本ページ (記入例)	34
休学、中断、苦情、契約解除	36
AT 休学届様式	38
AT 契約解除の手紙 (受講生用)	39
AT 契約解除の手紙 (BCT 用)	40
BCT 用の資料 (追加)	41
科目履修可能な場所	41
大学院レベルの科目履修	42
大学院レベルのインターンシップ	42
研究機関での集中研修	43
学会の大会とワークショップ	43
個人学習	43

公認ドラマセラピスト (RDT) /BCT の役割と責任	45
科目履修のアドバイザー・記録者としての BCT	45
入学選定	45
受講契約	45
過去の履修分の評価	45
将来の受講契約	45
フィールドワークあるいはインターン場所に関するアドバイス	46
受講生の資料保管の方法	46
AT 受講生出席簿 (未記入)	47
NADTA との連絡役としての BCT	48
教師・トレーナーとしての BCT	48
履修科目の評価	49
個人学習、ワークショップ、学会大会の評価	50
インターンシップ／スーパーバイザーとしての BCT	51
スーパービジョンのツールとしてのドラマ使用	52
スーパービジョンの段階	52
スーパービジョンの形式	53
スーパービジョンの場所	53
評価者としての BCT	56
助言、トレーニングを受ける BCT	56
BCT が受講する継続教育	56
BCT の資格取り消しと一時停止処分	57
付録	58
ドラマセラピストとして公認されるための要件	59
ニューヨーク州で行われた州公認クリエイティブ・アーツ・セラピスト (LCAT) 出願者用のケ ース・スタディ試験の概要	61

序文と歓迎の言葉！

未来の、そして現在の別ルート・トレーニング（AT）受講生の皆さんへ

みなさん、ようこそ！ ドラマセラピストになることに関心をもってください、感謝します。この別ルート・トレーニング（以下、AT）プログラムはまさにあなた方のために創られたのです！AT が開始されたのは、少数の大学（ニューヨーク州立大学、カルフォルニア統合学大学院、コンコーディア大学）以外で、ドラマセラピートレーニングの機会を提供するためでした。これら三大学だけでドラマセラピーの大学院レベルトレーニングを提供するのは非現実的だったからです。AT を創ったパトリア・スターンバーグとリンダ・グレゴリック・クックは、世界中の多くの人たちが、治療の道具としてドラマを使う能力、熱意、意欲を持ちながら、さまざまな理由で、トレーニングが行われている都市に移転してくることができないことを知っていました。また、すでに臨床分野で修士や博士号を持っている多くの臨床医らが、治療にドラマセラピーを導入したいと願っていることや、演劇分野で修士や博士号をもつ多くの芸術家たちが、安全に、倫理的に、責任ある方法で治療目的にドラマを使う方法を習得したいと希望していることも知っていました。ドラマセラピーには、人生を変容する力があるのです。NADTA はその力をあなた方と分かち合いたいのです。あなた方は、私たちの未来なのです！

BCT の皆さんへ

ようこそ！NADTA は、みなさんがドラマセラピストを養成する支援をしたいと考えています。明快な規則、手続き、方針を示し、皆さんが、私たちの大事な受講生との仕事をするときに、なんら推測で仕事をすることがないようにします。AT の強みは、その柔軟性と多様な教育機会を利用することでした。BCT と受講生は、自分の近隣、地域、全国レベルの様々なトレーニングの機会を有効に活用することができます。このハンドブックを読むことで、BCT のみなさん、受講生のみなさん、そして NADTA の事務局が、AT の書式の使い方、質問への答え、記録の上手なとり方などについてわかるようになっています。NADTA は、**全ての**ドラマセラピストに、トレーニングの場所や方法にかかわらず、同じように最高のレベルの技術と能力を達成して頂きたいのです。

謝辞

以下の方々に感謝します。

2003-2007年の教育委員会（ページ・ディキンソン RDT/BCT；パトリア・スターンバーグ RDT/BCT；リンダ・グレゴリック・クック RDT/BCT；ナイダ・ワイズバーグ RDT/BCT；マリー・シック RDT）そしてジュリエット・ザイサーRDT）らは、多くの時間を割いて、AT 契約書そして AT の方針と手続きを改訂し、精神保健、教育、社会活動そして予防の領域での審査に耐え得るような厳格な水準を保つものを作りました。

全ての2008年当時の BCT と NADTA 理事会らは、この改訂ハンドブックを綿密に精査し、校正し、コメント、提案、訂正、明確化、追加、そして変更を行ないました。

このハンドブックは、真のグループプロジェクトであり、私たち全員のものなのです！

ドラマセラピーとは何か？

ドラマセラピーとは、ドラマそして演劇で発生するプロセスを、治癒的目的を達成するために意図的に使うことである。

ドラマセラピーは動的、体験的であり、そして身体表現を伴う。ドラマセラピーを通して、参加者は、自分の物語を語り、目標を立てて問題を解決し、感情を表現し、洞察やカタルシスを手に入れることができる。ドラマを通じた内的体験においては、実際に演じ行動する中で、深く広く探索することができる。そして、対人関係の技術を練習し、上達させることができる。参加者は、現実の人生で演じる役割のレパートリーを増加・拡大することができる。そうすることで、自分の人生で行なう選択や交流がもっと柔軟になり、もっと自由な発展をすることができるようになる。

行動を変化させる、技術を身に付ける、感情と身体を統合する、人としての成長を目指すことなどが、ドラマセラピーを通して、予防、介入、治療の場で達成される。ドラマセラピストが対象とするのは、個人、カップル、家族、グループと多岐にわたる。そこで使用されるプロセスや技法としては、即興劇、演劇的ゲーム、物語を語ること、そして、演じることが含まれ、また、脚本の使用、上演、儀式、そして治療的効果や創造性を豊かにするプロセスも使う。

ドラマセラピーは、人生のどのような段階にいる人にも効果がある。対象クライアントとしては、薬物依存症から回復しようとする人、知的および身体的に障がいのある人、高齢者、問題を抱える青少年、精神病患者、機能不全家族、トラウマや虐待のサバイバー、矯正施設の収容者、ホームレス、あるいは、様々な個人的課題に取り組みたい一般の人たちである。

北米ドラマセラピー学会（NADTA）は、1979年に設立され、ドラマセラピストの厳しい教育、訓練、高いレベルの専門性を維持してきた。学会は、会員の評価によって資格（RDT）付与を行なうという方式で、学会公認ドラマセラピスト（RDT）の資格要件の質を保ってきた。NADTA は年次大会の開催、出版の後援、DTに関する情報提供、教育、啓蒙を通してDT分野の拡大・促進活動を行う。

Alternative Training（ドラマセラピー修士課程設置大学院以外でのトレーニング；「別ルート・トレーニング」）の簡単な歴史：

別ルート・トレーニング（AT）が設置されたのは、NADTA が承認しているドラマセラピー修士課程以外の道筋で、科目学習、大学院と同等のトレーニング、そして臨床的な経験を取得出来る方法を提供するためであった。ATのカリキュラム、基準、その全体像は、最初、パトリシア・スタンバーグ（RDT/BCT）が、NADTA の教育委員長の期間に、グレゴリック・クック（RDT/BCT）の援助を得て作成され、1995年5月7日、NADTA 理事会で正式に承認された。1999年5月7日、次期委員長に選ばれていた、アリス・フォレスター（RDT/BCT）が、BCT による会議において、AT の運用と手続きを微調整して、明確にした。これらの提案を受けて、ペニー・ルイス（RDT/BCT）が、最初のAT・マニュアルを書いた（2000年6月28日発行）。現在のハンドブックは、第二版で、現在のBCTたちの提言で改訂され、現在のNADTA 理事会で承認されたものである。

この種のハンドブックは、いずれも常に改善されていくもので、その時々ニーズと問題点を取り扱えるように、定期的に改訂、検討をして手続きを微調整していく必要がある。

ドラマセラピーの別ルート・トレーニング (AT)

1. 次のいずれかの分野で修士号を取得すること：演劇、教育、特殊教育、あるいはドラマセラピーに関連する精神保健分野

2. 修士課程の中、あるいはそれらに加えて、修士あるいはその他のコースで、習得する科目単位は以下の通り：

ドラマセラピーにおいて修士レベルの科目 24単位	心理学、メンタルヘルス分野で修士レベルの科目 12単位
必須科目	必須科目：
クリエイティブ・ドラマ (3単位)	発達心理学 (3単位)
クリエイティブ・アーツ・セラピー (3単位)	異常心理学、または、精神病理学 (3単位)
ドラマセラピー原論、または、ドラマセラピー入門 (3単位)	人格理論 (3単位)
特定対象群のためのドラマセラピー (3単位)	グループ・ダイナミクス (3単位)、または、上級カウンセリング・テクニク (3単位)
サイコドラマ、または、ソシオドラマ (3単位)	
ドラマセラピーの上級選択科目 (3単位)	

以下の必須の2科目は、ドラマセラピー分野か、心理学・精神保健学分野のいずれでも取得可。しかし、心理学・精神保健学分野で取得した場合、上級選択ドラマセラピー科目で3単位取得して、ドラマセラピー分野での24単位を満たさなくてはならない。

ドラマセラピー分野	心理学・精神保健学
ドラマセラピー研究法 (3単位)、または、	社会学研究 (3単位)、および、ドラマセラピーの上級選択科目 (3単位)
ドラマセラピーにおける倫理と専門性 (3単位)、または、	倫理と専門性 (3単位)、および、ドラマセラピーの上級選択科目 (3単位)

特に推奨する科目： 多様性／多文化カウンセリング (3単位)

注：公式の大学院レベル以外で科目単位を取得する場合、大学院レベルの単位履修時間に見合う実際の履修時間（正味）を算出する方式は以下の通り：大学院レベル科目一単位は、最低15時間の受講と、受講1時間あたり、授業以外での自己学習時間を2時間とする＝大学院レベル一単位あたり最低45時間の実際の学習作業を行なうこと。

3. ドラマセラピーのインターンシップ：800時間（正味時間）

- ドラマセラピーをクライアントとの直接接触で行なう：最低300時間
- スーパービジョンを最低30時間（10時間のクライアント直接接触につき、1時間とする）
- 間接的サービス作業として最大470時間（準備、後片付け、文書記録作業、会合など）

ドラマセラピーの別ルート・トレーニング (AT) : 該当するトレーニングとそれに該当しないトレーニングについて

AT とは : AT プログラムは、NADTA 承認の大学院修士課程に行かずに、必要とされる RDT の教育資格要件を取得できるようにするものである。AT を使うことにより、希望者は、自分に合った学習プログラムを創造的にデザイン、開発して、BCT の指導のもとで認定されたプログラムとすることができる。この AT プログラムは、関連する分野で修士か博士号を取得しているが、遠方に住んでいるという理由で NADTA 承認のドラマセラピー修士過程大学院に行けない人たちのために策定された。AT カリキュラムは、RDT の公認に必要な教育、トレーニングの科目も提供する。BCT が責任を持って監督するのは、教育とトレーニング科目部分「のみ」であり、専門分野時間、演劇関連時間、その他公認に必要な必須科目部分は、監督しない。注1

AT は、公認に必須の全ての科目を提供するものではない。

RDT として必要と決められている教育・トレーニング科目単位の他に、全ての受講生は、ドラマセラピストとして公認されるためには、以下の必要科目・事項を修了しなくてはならない。

1. ドラマセラピーに関連すると承認されている、以下の分野で修士号を取得すること：演劇・ドラマ・演劇教育、心理学、カウンセリング、ソーシャルワーク、結婚・家族療法、特殊教育、教育、表現またはクリエイティブ・アーツ・セラピー、音楽療法、アートセラピー、ダンス・ムーブメントセラピー、サイコドラマ、詩歌セラピー、プレイセラピー、スピーチ病理学、作業療法、あるいは、セラピューティック・レクリエーション（治療効果のあるレクリエーション）。注2
2. 演劇経験あるいはトレーニングを最低500時間行なうこと。注3
3. ドラマセラピストとしてのワークを、有料またはボランティアで、最低1000時間行なうこと。
4. 以下の項目の一つ、あるいは、組み合わせで、上記三項目に加えてさらに、最低500時間のワークを行なうこと。

- a. ドラマセラピーのワーク経験
- b. ドラマセラピーのインターンシップ時間
- c. ドラマセラピートレーニング、あるいは、精神療法トレーニング（継続教育ワークショップ、セミナー、学会の大会などを含む）
- d. 過去5年以内で、最大100時間の自分自身が受ける心理療法

公認に関する他の情報は、付記部分と NADTA のウェブサイト、www.nadta.org を参照のこと。

注1 例外：受講生が修士課程に入学して、BCT がその受講生のアドバイザーであった場合にかぎり、BCT が修士課程を監督する。

注2：**修士号免除**は、一件ごとに審査し、AT の契約に先立って許可を得なければならない。修士号免除を申請するには、下記の書類を公認委員会に提出すること。

1. 受講生からの、修士号免除を申請する意図を記した書面。
2. 予定している BCT からの、修士号免除を支持する書面。
3. 受講生の履歴書
4. 受講生の成績証明書
5. その他、必要と思われる、申請の趣旨を支持する書面

注3：これらの時間の修得は、教育、専門、コミュニティーのいずれの演劇活動でもよい。教育関連の演劇の時間は、証明書の提出で可。専門、コミュニティーでの演劇活動時間の修得は、その梗概、プログラム、新聞記事、および証明する書面の提出で可。公認のための演劇時間は、AT より以前・同時・その後、いずれの時期に修得してもよい。

すぐ分かる： 別ルート・トレーニング (AT) 受講生の手引き

始めるには：

必要な基礎学歴：ATを受講する受講生は、最低限、大学終了資格（学士号）が必要である。ATを完了するには、以下の分野で、修士号あるいは博士号を取得する必要がある：演劇・ドラマ、心理学、カウンセリング、ソーシャルワーク、結婚・家族療法、特殊教育、教育、表現またはクリエイティブ・アーツ・セラピー、音楽療法、アートセラピー、ダンス・ムーブメントセラピー、サイコドラマ、詩歌セラピー、プレイセラピー、スピーチ病理学、作業療法、あるいは、セラピューティック・レクリエーション（セラピー効果のあるレクリエーション）。

RDT/BCT を選ぶこと：BCTを選ぶのは受講生の責任である。BCTは、(受講生が)基本カリキュラム要件を満たす学習プログラムを計画するための主要な指導者・アドバイザーとなる。そして、双方で合意した謝礼金にて、BCTは(受講生の)トレーナー、スーパーバイザーになる。この謝礼金はBCTが設定するが、最低、時間あたり25ドルでなくてはならない。(現在活動していて、依頼できるBCTのリストは、NADTAのウェブサイト参照。www.nadta.org)

年間学習契約：

初年度学習契約：受講生は、BCTと一緒に、年間学習契約に署名して、AT受講生としての地位を取得し、維持することになる。この契約は、毎年、(最初の契約からおよそ12ヶ月後ごとに)、更新される。いつも、契約書は三部作成し、それぞれ、BCTのファイル、受講生、NADTA事務所に保管しなくてはならない。(AT契約の見本については34-35ページ(英版28-29)を参照)。受講生は、BCTに評価してもらうそれまでの全てのワークの書類を揃える必要がある。しかし、契約書に記入するのは、受講生ではなく、BCTの責任である。

初年度契約の提出：AT受講生は、初年度の学習契約書のコピーと、一回限りの手続き費用として75ドルを、NADTA事務局に提出しなくてはならない。NADTA宛のこの支払には、学生会費の一年分が含まれている。年会費以外の手続き費用分は、ATプログラムの管理費用として使われる(このハンドブックや関連する出版物の発行と配布など)。

年度ごとの契約更新：受講生は、BCTの要請に応じて、契約更新の日取りを決め、過去一年間で完了したワークの書類を準備する責任がある。BCTは、全ての更新された契約書類を、NADTA事務局に送る。

一年ごとの評価：AT受講生の進展については、最低、年一回、このプログラムを続けていけるかどうかの適正が評価される。倫理的、その他の事情で契約を解除する必要がある限り、BCTが、AT課程全体を通して、主な指導・アドバイザーを続ける。

最終契約：ATの必要科目を修了すると、受講生は、BCTが署名した最終契約書を受け取る。この契約書には、適切な評価と書類が添付されていて、AT学習の成績証明書として、RDT申請書とともに提出される。この時、BCTも、RDT推薦状を、学生に渡す。

方針、手続き、必要条件：

NADTAの会員登録：AT受講生は、受講資格を維持するために、トレーニング期間中を通して、必ず、

NADTA 加盟を更新しなくてはならない。AT を修了すると、加盟の資格は、(正式の)「会員」に変更され、その後、実地研修時間が修得されて承認されると、公認となる。年会員権は毎年5月1日に開始する。**転居する場合の電子メールや電話の変更**：AT 受講生は、その連絡先の変更があった場合、変更発生の30日以内に、住所、電話、そして電子メールアドレスを、自分の BCT と NADTA 事務局の両方に連絡する責任がある。

記録の保管：受講生は、自分で契約書、成績証明書、学会参加の証明書、ワークショップ証明書、インターン研修の評価書など、全ての書類のコピーを保管しなくてはならない。これらの書類が、AT 契約の更新や、RDT 公認申請のための書類になる。

休学：受講生が、妊娠、病気、家族の緊急事態、失職、軍務による休職、あるいは、その他予期せざる事情により、AT を休学する必要があるときは、(NADTA のウェブサイトにある)休学届に、必要事項を記入し、BCT の署名を添えて、NADTA 事務局に提出しなくてはならない。休学は1年間を取得することができ、その後、3回の更新で、合計4年間取得できる。(「休学、中断、苦情、契約解除」の項の書式を参照のこと。)AT 休学中の受講生は、NADTA の学生会員資格を維持しなくてはならない。

AT の必要条件の変更とその適用免除：RDT 公認要件の変更に伴い、AT の要件も、時々変更される場合がある。変更以前の要件をすでに修了している AT 受講生は、受講開始時の要件の適用を受け、変更後の要件からは免除される。しかしながら、そのときの要件を修了していないときは、変更後の要件を満たさなくてはならない。(例えば、倫理学の単位が3から4単位に増加した場合、それまでに倫理学の単位要件を満たしていれば、新たな授業を履修したり、追加の単位をとる必要はない。しかし、受講生がまだ倫理学を修了していないときは、4単位を取得するよう求められる。)

倫理的な問題：

NADTA の倫理規定：受講生は、この分野での活動を目指すにあたり、倫理行動基準を守り、専門職としての質向上を目指すとの声明文書に署名する。署名されたこの声明文書は、契約開始にあたって、および NADTA の会員資格更新毎に、必要とされる。

セラピーとトレーニングの二重の関係について：個々の受講生と BCT は、AT 契約の一部として(契約書第3ページ)、以下のように述べている声明文に署名しなくてはならない：「臨床トレーニングにおいてトレーニングを受けているものが、体験的ワークや学術的ワークから何らかのセラ皮的利点を経験することが、よく見られるとはいえ、受講生はクライアントの役にいるのではない。さらに、BCT はセラピストの役を引き受けてはならない。もし、受講生が特別に支援を必要とする場合、継続したセラピーを受けることが望ましい。この時のセラピーとしての関係は、受講生の BCT やその他の監督者でないことが望ましい。」

多様化擁護：NADTA の内規は、「本組織の会員資格は、人種、宗教・政治の信条、性別、民族背景、民族・国籍の出自、あるいは性的指向にかかわらず、全ての人に開かれている。」と述べている。この開放性は、AT の全ての面にわたって適用される。

特別な援助の便宜：学習、学習したことを書類にする・提示する、インターンシップの記録を書類にする、あるいは学習環境やインターン研修の環境を得ること、以上を成し遂げるために(障がいなどで)特別な援助の必要がある AT 受講生は、自分の BCT (そしてインターン研修のスーパーバイザー)に、その

ような必要性を知らせ、さらに今までで有効だった適切な援助方法について提案してもらう必要がある。

いつも連絡を保つことについて：

AT に関するネットワークと情報： NADTA 全国年次大会において、AT 受講生のために会議が毎年開催される。さらに、NADTA 全国年次大会において、その年に RDT 公認を申請予定の受講生、および公認委員会に質問のある全ての受講生のために、別の会議が開催される。AT 受講生は、これらの会議に参加することが望ましい。これら以外のネットワークと情報収集となる機会は、地域会議、支部会議、「ドラマスコープ」(NADTA のニューズレター)、ドラマセラピー・メーリングリスト、そして NADTA のウェブサイト (www.nadta.org)である。

苦情、BCT あるいは受講生との契約解除について：

苦情： 受講生は、不公正な取り扱いについて、BCT に対しての苦情を申し立てることができる。教育委員会委員長は、申し立てを受けて苦情を審査するために、特別に苦情委員会を設置し、双方に受け入れ可能な解決に到達するよう努力する。もし、倫理規定違反が苦情に含まれる場合、その苦情の適切な処置を求めて、苦情は倫理委員会に付託される。

BCT あるいは受講生による契約解除： BCT は、受講生の学習に満足しない場合、契約を解除できる。受講生も、BCT に不満足の場合、契約を解除できる。契約が解除された場合、BCT と受講生の両方で署名した、解除の手紙を NADTA 事務局に提出しなくてはならない。受講生は、その後、自分の主要な指導者・アドバイザーとなる別の BCT を探すことができる。

注意： 受講生が BCT を変更するときは、最低 12 履修単位、およびインターン研修時間のうち、クライアントと直接接触する研修時間の最低 100 時間あるいはそれ以上の時間が、新しい BCT の指導のもとに修了されなくてはならない。(「休学、中断、苦情、倫理規定違反、契約解除」の項目下にある、AT 契約の解除を参照のこと。)

質問・懸念事項： BCT が答えられない質問や懸念事項は、NADTA 理事会の教育委員会委員長に提出すること。

委員長との連絡は、電子メールの場合：education@nadta.org 通常郵便の場合： Education Chair; NADTA;

1450 Western Avenue, Suite 101, Albany, New York 12203

公認に関する重要な情報

公認とは何か？ 公認とは、学会員の評価と認定によって資格（RDT）を付与することである。この公認によって、ドラマセラピストらは、ドラマセラピー分野における自分の教育・トレーニング・専門性・能力・技術を、将来、自分の雇用主やクライアントになる人たちに対して証明することができる。またこの公認により、ドラマセラピーの教育・専門の公認機関として認められている NADTA から公式に認定資格を与えられたことを示すものでもある。会員・専門家「同士による評価」とは、応募者は、自分の教育、トレーニングと経験を詳述した書面、それに加えて、各種証明書（AT 契約書や修士号成績証明書）、小論文（演劇経験とドラマセラピー方法について）、推薦状を、NADTA の基準と方針を代表している公認ドラマセラピスト（RDT）委員会に提出することを言う。この委員会が応募内容を評価して、応募者が、必要とされる教育とトレーニング、臨床経験、専門性、倫理規定に沿った行動、そして専門的なドラマセラピストとして認められる行動・態度であるかを決定する。現時点で、公認のための試験は必要とされていない。

この RDT 資格は、ドラマセラピーを実施するにあたり、専門的レベルの知識、技術、そして高度に洗練された技能を修得している証として、NADTA、ドラマセラピスト、そして多くの個人、企業、団体から認められている。

公認の免責条項：ドラマセラピーAT を成功裏に修了することが、ドラマセラピストとしての公認に向けた第一歩である。次のステップは、プロのドラマセラピストとして、（有給・無給を問わず）最低 1000 時間のワークを完了し、そしてドラマセラピーのワーク（有給・無給を問わず）か、追加のインターン研修、および・または追加の心理療法トレーニングとして、さらに最低 500 時間を完了することである。AT の期間の前、同時、あるいは後のいずれかの時点で、演劇経験および・またはトレーニングとして最低 500 時間を完了する必要もある。

公認応募者は、3 通の推薦状を提出しなくてはならない。学問的アドバイザー（この場合は、BCT となる）、専門的時間のスーパーバイザー、そして応募者のドラマセラピストとしての技量を知っている、同僚、トレーナー、あるいはスーパーバイザーからの 3 通である。（クライアントは、この推薦者になることができない。これらの推薦状は、応募者の臨床能力、倫理規定に沿った行動、臨床チームで同僚と仕事をする能力、および、その他の強みや弱点について証明するものである。

公認応募書類は、NADTA 公認委員会に提出され、慎重な審査のあと、委員会が公認するかどうか決定する。

注：「RDT 候補者」という公式の中間的な地位はない。専門的な認定時間を取得中の受講生であるか、あるいは RDT であるかのいずれかである。

州の開業免許に関する重要な情報

開業免許とは何か？ 州立法府では、特定の職業の開業者に「免許」を付与することで、その開業者を州が認定する実践家として特定している。開業免許は、適切なトレーニングや技術をもっていない開業者から、州住民を保護するものである。開業免許は、さらに専門職のそれぞれの分野において、その業務内容の範囲を保護するものである。（例えば、両方の専門業種で開業免許を取得していないかぎり、心理療法士がマッサージ療法を提供できないのと同じように、マッサージ療法士は心理療法の業務を提供できない。）開業免許の詳細（規則）は、州精神保健委員会が策定し、そこが通常、認定応募者の監督、評価、試験にあたる。開業免許は、発行された州内でのみ有効である。

開業免許の免責条項：RDTになることは、ドラマセラピストあるいは心理療法士として（その州、国の）開業免許を与えることではない。これまでの説明で明らかであるように、開業免許と公認は、同じ資格ではない。

ニューヨーク州：現時点で、ニューヨーク州で取得できる州の開業免許は、「開業認可・クリエイティブ・アーツ・セラピスト（LCAT）」である。詳しい情報は <http://www.nyccat.org/>

現在は、ニューヨーク州開業認可委員会が認めたドラマ、ダンス、音楽、アートまたは表現アートセラピーの修士号レベルの資格を持った人のみがLCATに応募できる。NADTAのATはまだニューヨーク開業認可委員会からその承認を得ていない。しかし、NADTAの政府委員会が承認を求めて活動している。

ニューヨーク州クリエイティブ・アーツ・セラピー開業認可への応募についての更なる情報は、以下を参照のこと：<http://www.op.nysed.gov/>

専門職の二番目のウェブサイトで、規則をクリック（17-21ページ）。

<http://www.dos.state.ny.us/info/register/2004/decl/pdfs/Rules.pdf>

現在、他の州で、「クリエイティブ・アーツ・セラピスト」あるいは「ドラマセラピスト」に開業認可免許を与えている州はない。

カリフォルニア州：カリフォルニア州では、カリフォルニア統合学大学院（CIIS）で、NADTAが承認している修士号プログラムを卒業することで、その修士号の一部として、結婚・家族療法（MFT）領域を修了するので、カリフォルニア州での、開業認可結婚・家族セラピスト（LMFT）として資格を得ることができる。

ウィスコンシン州：現在、ダンス、アート、そして音楽セラピーの開業認可がある。ドラマセラピーの開業認可はない。しかし、開業認可専門カウンセラーに応募することができる。手続きについての情報は、ウィスコンシン州開業認可ウェブページを参照のこと：<http://drl.wi.gov/prof/coun/cred.htm>

ニュージャージー州：ドラマセラピーで修士号を取得したとしても、ニュージャージー州では、開業認

可専門カウンセラー（LPC）の資格にはならない。しかし、別の方法（AT など）で RDT と、カウンセリング分野で修士号を取得しているときは、LPC を取得することができる。

この応募様式は、以下よりダウンロードすること：www.state.nj.us/lps/ca/marraige/pcappl.pdf

詳しい情報は、以下に連絡すること：結婚・家族療法評価・州理事会の理事長

PO Box 45007

Newark, NJ 07101

(973) 504-6415

(973) 504-6582

AT 受講生は、自分の州での開業認可の規則について、どの修士号が必要か、学習科目の内容、インターンシップの時間などを含め、調べる必要がある。NADTA は、セラピーの法的要件の成り行きを見守り、まだ開業認可がなされていないという問題に関し、ドラマセラピストを保護していく。もし、受講生の修士号の分野が、カウンセリング、ソーシャルワーク、あるいは心理学であれば、州において、そのいずれかの分野での開業認可申請をすることが可能である。開業認可は州によって異なり、各州の心理療法とカウンセリングの法的規制は異なっている。

州の開業認可について、現在の情報を入手するには、郵便か電子メール (governmnetaffairs@nadta.org) で NADTA 理事会政府関係委員長と連絡をとるか、自分が住んでいる州の精神保健開業認可委員会と連絡をとること。

別ルート・トレーニング(AT)のカリキュラム：ドラマセラピー

大学院レベルで取得した、ドラマセラピーの24学期単位が最低必要となる。

1学期単位とは、教室での授業が15時間、そして通常、教室内授業の1時間につき3時間の家庭学習が課される。受講生は、すべての科目の評価の平均でBの成績を維持し、合格・不合格あるいは可・不可で評価される科目では、全ての科目で「合格」あるいは「可」を取得しなくてはならない。

ドラマセラピー科目は、当該科目の分野でのトレーニングと経験について証明文書を提出したRDTが教えなくてはならない。そのRDTは、以前にその科目を大学院レベルで教えた経験があるか、あるいは、その科目を最初に教えるときは、BCTの監督のもとで行わなくてはならない。サイコドラマ科目は、米国集団精神療法・サイコドラマ学会(ASGPP)が認定した、トレーナー、教育家、実践家(TEP)、あるいは、認定実践家(CP)が教えなくてはならない。

ドラマセラピーの科目リスト

中心となる必須ドラマセラピー科目：

クリエイティブ・ドラマ（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）、あるいは、ドラマセラピーで使う即興演技技術を教える科目。代理となる科目の例は、即興演技、ドラマ教育（ドラマ・イン・エデュケーション/DIE）、プロセスドラマ、被抑圧者の演劇などである。

ドラマセラピー原論（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

特定対象群のためのドラマセラピー（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

全般的な概論、あるいは、少なくとも一対象群（対象領域）に焦点を当てた科目。

例）問題を抱える青少年／発達障がい／矯正／感情障がい／病院、健康施設／トラウマのサバイバー
薬物依存症／高齢者／問題を抱える子どもたち

あるいは、異なった対象群について、一単位の科目を三科目取得することもできる。

サイコドラマまたはソシオドラマ（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

科目内容は、全てサイコドラマでも、全てソシオドラマでも、両方の組み合わせでもいずれでもよい。サイコドラマとソシオドラマの科目では、ソシオメトリーが含まなければならない。

クリエイティブ・アーツ・セラピー（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

科目の内容は、全般的な概論、または、ドラマセラピーとサイコドラマ以外のクリエイティブ・アーツの最低一つについて焦点を当てたもの：ダンス／ムーブメント、アート、音楽、または、詩歌・読書療法。あるいは、異なったクリエイティブ・アートについての一単位の科目を三科目取得することもできる。

ドラマセラピーにおける倫理的問題（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

この単位は、ドラマセラピー科目として、あるいは、心理学・精神保健科目として取得することができる。

ドラマセラピー研究法（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

この単位は、ドラマセラピーの科目として、あるいは、心理学・精神保健・社会科学の科目として取得することができる。

選択科目として、追加して取得するドラマセラピー科目分野の例（これは通常あり得る例としてのリストである）

注：もし、「ドラマセラピーにおける倫理的問題」と「ドラマセラピー研究法」を取得した場合、さらに上級選択科目の3単位が必要となる。もし「倫理的問題」と「研究法」を、精神保健分野あるいは心理学科目として取得した場合、さらに上級選択科目9単位が必要となる。

上級選択科目—ドラマセラピーの応用（この単位数は固定的でない）

- 対立（葛藤）の解決のための演劇
- 治療的演劇
 - 自己開示劇
 - オメガ変容劇
 - 語り直された脚本による上演
 - 民族ドラマ／ノンフィクションドラマ
 - ドラマセラピーのための脚本作り
 - 演劇教育（シアターインエデュケーション）
- ドラマセラピーのメディア
 - ドラマセラピーのビデオ／映画
 - ドラマセラピーの写真セラピー
- ゲシュタルト療法
- プレイバックシアター
- さらに異なった特定対象群のためのドラマセラピー
- 投影技法
 - 箱庭療法
 - パペット（人形）セラピー
 - マスク（お面）を使うセラピー
- プレイセラピー 一つの特定のドラマセラピーの理論と技法についての深い探求、例えば下記にあげた用法、しかし、それ以外でも可。
 - プレイセラピー ロールセオリーを使って
 - 発展的変容

- 統合的 5 段階モデル
- ナラドラマ
- 二段階：回復一個性化
- 発達のテーマに関して
- 治療的螺旋方式 (TSM)
- 成長のためのリハーサル (RfG)

上級選択科目：ドラマセラピーにおける専門性（この単位数は固定的でない）

- ドラマセラピーにおける倫理的問題
- ドラマセラピー研究法
- ドラマセラピー研究法と査定法
- ドラマセラピー研究法と治療
- ドラマセラピーに関する修士論文、または新しい手法と適用法の開発
- 文化の多様性を課題としたドラマセラピー

その他の有資格トレーナーによる科目：もし受講生が、自分の BCT 以外で、有資格の認定トレーナーが提供するドラマセラピー科目を見つけた場合、当該 BCT はその科目を受け入れなくてはならない。

注：科目履修、臨床研修、あるいは有料のドラマセラピーワークなどのどのようなトレーニングであれ、受講生の契約の中で、単位として二重に加算されてはならない。例えば、特定の対象者のためのドラマセラピー 3 単位の科目で、その中にクライアントとの相互交流がある部分を含むからといって、必須科目の 3 単位とインターンシップ研修の 800 時間の一部に同時に加算することはできない。

ドラマセラピー関連科目の説明

(下記のリストは、全てのドラマセラピー関連科目を網羅するものではない)

必須科目：

クリエイティブ・ドラマ（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

本科目の目的は、様々な即興的ドラマのアクティビティへの積極的な参加を通して、創造的想像力や自己表現力、社会的関係性を育むこととする。クリエイティブ・ドラマのアクティビティ（即興的ドラマのアクティビティ）とは、シアターゲームや即興、ストーリーテリング、ストーリー・ドラマ、パペットワーク、教育的演劇が含まれる。クリエイティブ・ドラマには、本来の定義上、特に治療的意図はない。

クリエイティブ・ドラマに代用できる科目：

即興

受講生は、ドラマセラピーにおいて用いられる脚本のないドラマ過程に慣れるために、文献講読やディスカッション、体験を通して即興の基本的技法を学ぶ。ヴァイオラ・スポーリンやポール・シルズ、キース・ジョンソンらの業績を含む即興の歴史を概観する。シアター・ゲームやシアタースポーツ、様々な即興の技法を通して、受講生は自らの自発性や即座に判断できる能力を培う。

ドラマ教育 (DIE)

本科目は、小学校から高校までの教育カリキュラムの全ての側面から教えることができるようなドラマ過程（プロセス・ドラマ）や、教室におけるドラマの融合などの技法に焦点を当てる。受講者は、ブライアン・ウェイやドロシー・ヘスカット、ギャビン・ボルトン、シシリー・オニールの業績を含むDIEの歴史を概観し、一つの教育科目に対する独自のカリキュラムを研究・発展・発表する。

ドラマセラピー原論（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間、「ドラマセラピー入門」「ドラマセラピーの現在のアプローチ」などの題名の科目でもよい）

ドラマセラピーの概論及び実践に関わる理論や原理を講義やディスカッション、文献講読や体験を通して概観する入門科目である。ドラマセラピーの歴史や元となる演劇学・心理療法学、先駆的な専門家の情報や彼らのアプローチ・理論について概観する。公認ドラマセラピストになるための要件や典型的な実践の場、ドラマセラピストとしての基本的な倫理的考慮事項を検討する。

特定対象群のためのドラマセラピー（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

本科目では、特定の対象者の異なるニーズに適用すべくドラマの治療的活用について学ぶことが目的である。概観する科目においては、受講生は、学期を通して様々な対象者へ自らのドラマセラピーのトレーニングを適用する。特定の対象者に焦点をあてた科目においては、一つの対象者の発達の及び臨床心理的ニーズについて深く学び、彼らにどのようにドラマセラピーの技法を適応できるかについて学ぶ。

サイコドラマ入門（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

受講生は、ヤコブ・レヴィ・モレノの歴史及びサイコドラマの発展について学ぶ。サイコドラマにおける次の5つの手段（監督、演者、補助自我、観客、舞台）、サイコドラマの枠組み（ウォームアップ、実演、役割解除、シェアリング）、そしてサイコドラマの主要な技法（補助自我、ダブリング、ロールプレイ、役割交換）について話し合い、体験する。ソシオメトリーの原理や技法も取り上げられる。様々な対象者に対するサイコドラマの活用についても触れられる。本科目は、TEP（サイコドラマトレーナー/教育家／実践家）またはCP（サイコドラマ認定実践家）により教えられなければならない。

ソシオドラマ（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

受講生は、モレノによるソシオメトリーやソーシャル・アトム、ソシオドラマ（つまりグループのドラマ）の歴史について文献講読し、ディスカッションを行う。受講生は、ソシオドラマに参加者として、また、監督としての体験をする。

クリエイティブ・アーツ・セラピー（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

受講生は、文献講読やディスカッション、体験を通して、幅広いクリエイティブ・アーツの様式や治療的アプローチについての理解を得る。様々な対象者に対する幅広い様式やアプローチの適用の適切さについて論じられる。アート（描写、ペインティング、彫刻）、詩歌、日記を書くこと、ストーリーテリング、ダンス・ムーブメント、箱庭（サンドプレイ）、音楽（楽器及び歌）などを探求し、通様相性的にドラマへと織り込んでいく。

ドラマセラピーにおける倫理と専門性（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

受講生は、NADTA 倫理規定及び心理療法やカウンセリングの分野における倫理的実践のための一般的な基準について、実際的知識を得る。インターンシップや文献から引き出される次のような鍵となる倫理的または法的問題に焦点をあてる：インフォームドコンセント、報告しなければならない事項、二重関係、HIPPA（医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律）の基準、タッチの適切な使い方、守秘義務（忠告義務や児童虐待が疑われる時、法律と倫理が相反する時どうすべきかを含む）。本講義には、異文化カウンセリングを扱う部分がなければならない。想定される場面は、ソシオドラマ的に提示され、話し合われる。

ドラマセラピー研究法（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

量的研究（統計的・因果的・実験的デザイン）や質的研究（ケーススタディ・記述的・新しい方法・現象学的・ネオ間主観的デザイン）、研究査定法が紹介される。受講生は、既存の研究法を批判的視点から評価し、出版可能なレベルのドラマセラピーの研究法をデザイン・実行・執筆できる能力を身につける。文献レビュー、鍵となる概念や仮説の探り出しや定義付け、研究者が持つ前提や偏見、被験者の選定、データ収集や解釈、信頼性や妥当性、悪影響や限界、将来の研究のための提案が探求される。

上級選択科目 - ドラマセラピーの応用

対立（葛藤）の解決のための演劇

受講生は、対立（葛藤）や対立（葛藤）解決に関する最近の理論や、それらをどのようにドラマセラピーや治療的演劇の方法を通じて適用されるかを学ぶ。本科目では、演劇がどのようにコミュニケーションを通してコラボレーションを促進できるのか、また、古い役割についていかにして新しい演じ方を試みることができるのか、といったことを解説する。

治療的演劇

受講生は、様々な対象者に対するドラマセラピーにおいてどのように様々な治療的演劇方法を適用するかについて学ぶ。また、受講生は、対象者及び治療的演劇方法の一つを選び、ドラマセラピー過程を通して自らの治療的演劇を発展させる。

自己開示劇

受講生は、個人的事柄を、しっかりと設けられた演劇スペースにおいて演じられる劇的な創造物に作り変えていく過程に参加する。自己開示劇は、現実生活に基づいていることに加えて、既に克服された過去の問題ではなく、さらけ出すことで非常に高いリスクを要求する現在の問題を開示する点において、自伝劇とは区別される。

語り直された脚本による上演

受講生は、語り直しやユニークな結末、行為やアイデンティティの風景、新しい人生観などナラティブ・セラピーの概念に基づいたナラドラマ・アクション・メソッドを通して、再度語られたストーリーの脚本を用いたパフォーマンスを探究する。受講生は、自分の人生のストーリーの監督となり、招待された観客の前で自ら演じる脚本を創る。

オメガ変容劇

受講生は、自らが直面する人生の挑戦について、自ら脚本を作成することを学び、変容の可能性を想像する。招待された観客の前でこれらの自らの脚本を演じる。

民族ドラマ/ノンフィクションドラマ

民族ドラマは、特定の文化や集団、経験グループに属する個人の証言をもとに作り上げられた劇の展開に焦点をあてる。受講生は、同意書や承諾書の作成方法やインタビュー実施法、インタビューを脚本に書き換える方法、そしてその脚本を舞台にしていく方法を学ぶ。民族ドラマのパフォーマンスに関わるインタビューを受ける人や役者に対して必要な倫理的境界や気配りについても触れていく。

ドラマセラピーのための脚本作り

受講生は、クライアントのためにまたはクライアントと共にオリジナルの劇を創るための、脚本作りを用いた個人やグループへのドラマセラピーにおける様々な技法を練習する。

演劇教育（シアター・イン・エデュケーション／TIE）

本科目では、特定された教育的及び／または心理教育的内容を用いたパフォーマンスの制作に焦点をあてる。受講生は、TIE プログラムの歴史を概観し、オリジナルのプロダクションを研究・制作・披露する。

箱庭療法

受講生は、様々な箱庭の方法を学び、個人や家族、グループに対してどのように箱庭の手法を用いていくか、学ぶ。

サイコドラマ上級（TEP（トレーナー/教育家/実践家）または CP（認定実践家）が教えなければならない）

受講生は、サイコドラマ入門で学んだサイコドラマのスキルを引き続き磨き、クラスの中及び TEP のスーパービジョンのもとで臨床現場において実際にサイコドラマの実践を行っていく。

パペット（人形）セラピー

受講生は、手または棒、手および棒、マリオネット、文楽、影絵などの様々なスタイルのパペットを創る技法を学び、パペット作成に使用される様々な材料に精通する。パペットの舞台やプレゼンテーションのスタイル、様々な観客に向けてのパペット劇の書き方も網羅される。受講生は、更に個人やグループのクライアントとの間の一対一のパペット交流をどのようにファシリテートするか練習する。

マスク（お面）を使うセラピー

受講生は、様々な材料から様々なスタイルのマスク（仮面）を制作する技法を学ぶ。自己表現や儀式、変換、セラピーにおけるマスクの利用についての異なる理論や、異なる対象者とのクライアントのマスク制作やパフォーマンスの適用が取り上げられる。

ゲシュタルト療法

受講生は、ゲシュタルト療法の発展やフリッツ・パールズの歴史について学ぶ。ゲシュタルトや現実の覚知、意識の前面と背景、トップ・ドッグとアンダー・ドッグ、反転行為と鵜呑みと統合などの主要概念と共に、環境との接触やエンプティーチェア、実験、実験の逆転、夢の探求などの主要な技法について論じ、体験する。ゲシュタルト療法の様々な対象者への適用についても論じられる。

プレイバックシアター

受講生は、ジョナサン・フォックスとジョー・サラ他により構築されたプレイバックシアターの方法を学ぶ。人生における物語が共有され、役者と音楽家のチームにより自発的に再現される。今では世界の50ヶ国もの国々においてコミュニティの場で実践される教育的かつ治療的な演劇形態である。受講者は、プレイバックシアターと治療実践の関係を含む基礎理論を学び、ポジティブな集団過程に意識を向けながら、コンダクター及びミュージシャン、アクター（役者）の役割を練習する。動く彫刻やペアーズ、完全

なるストーリーなどのプレイバックの形式が教えられる。本科目は、”The Centre for Playback Theatre”から、または同等の経験と本センターから承認を得ているプレイバックシアターにおける実践的かつ理論的トレーニングを受けた者が教えなければならない。

プレイセラピー

受講生は、アンナ・フロイト、メラニー・クライン、バージニア・アクスライン、カール・ムスターカス、チャールズ・シェーファー、エリアーナ・ギル、ゲリー・ランドレス、エレノア・アーウィン、アン・カタナック他が発展させたプレイセラピーの様々な理論や技法を学ぶ。様々な年齢の子どもに対して実践をすることで、受講生は、個人と集団プレイセラピー、指示的と非指示的プレイセラピーの違いを理解していく。

ナラドラマ

受講生は、ナラドラマの理論や技法について学ぶ。また、外在化やストーリー化する、ユニークな結末、足場、行動やアイデンティティの風景、解体及び立て直し、再ストーリー化をする、などのアクション技法を練習する。受講生は、マスクやパペットの制作や写真セラピーを通して、好ましい役割や様々な将来、様々な可能性などを探求する異なる方法を発見する。また、受講生自身の人生の転換や決断、重大な変化を表す儀式をどのように発展させていくかを学ぶ。インサイダー集団、内省するチーム、相談者に相談する、などの技法も練習する。

上級選択科目 - ドラマセラピーにおける専門性

ドラマセラピーにおける倫理と専門性（受講生が既に心理学における倫理的問題を受講している場合には、上級選択科目として使うことができる — 「必須科目」に記載されている詳細説明を参照。）

ドラマセラピー研究法（受講生が既に心理学研究法を受講している場合には、上級選択科目として使うことができる — 「必須科目」に記載されている詳細説明を参照。）

ドラマセラピーにおける研究プロジェクト

受講生は、研究プロジェクトを提案し、文献レビューを終え、研究プロトコルを計画し、インフォームド・コンセントのフォームを作成し、Institutional Review Board (IRB)で本研究の承諾を得る。IRBが承諾することにより、研究における全ての倫理的問題が取りあげられ、研究に参加するボランティアから適切なインフォームド・コンセントが得られたことを意味する。IRBの承諾が得られれば、受講生はボランティアを募り、研究を実施し、データを集め、結果を分析する。

ドラマセラピーにおける査定法と治療

受講生は、様々な診断を持つ対象者を手助けするためにドラマセラピーやクリエイティブ・アーツ・セラピーの査定法（ロール・プレイング・テスト、ストーリーを語る Tell-A-Story (TAS)、ロール・プロフィール Role Profiles、6段階のストーリーメイキング Six Piece Storymaking、家族パペットインタビュー

Family Puppet Interview、人物画 Draw a Person、人・家・木の描画 Person/House/Tree Drawing など) を学び、実践する。査定から得られた情報をもとに、受講生はクライアントに対して個別の治療計画を立てる。

ドラマセラピーにおける修士論文、または新しい手法と適用法の開発

受講生は、ドラマセラピーまたは心理学の特定分野における文献をレビューし、あるいは、新たな見解よりドラマセラピーに関する理論的問題の提起をするために一連の個人的探求を実施し、結果として出版に値する重大論文を作成する。

文化の多様性を課題としたドラマセラピー

ドラマセラピーの治療に影響を与える多様性の問題（文化・民族・社会経済・宗教・性的指向・性別同定・難民認定状態・その他を含む）を学ぶ。適切な介入を探求する方法が論じられる。受講生は、非優位グループがスティグマ（烙印）を受けることによる否定的影響や、地域社会におけるスティグマや排斥から生まれる問題について学ぶ。受講生は、クライアントとどのようにやり取りをするかより気づきを得るために、自らの偏見やとらわれについて査定することを促される。

別ルート・トレーニング (AT) カリキュラム：心理学関連科目

少なくとも12単位の心理学関連科目が必須である。1単位とは、授業時間数が正味15時間であり、更に通常は授業時間数1時間に対して3時間程度の宿題が出される。受講生は、平均的な成績(Bや可など)を取得することが条件である。

心理学科目のリスト

受講生は、下記の4つの科目またはそれに相当する科目を終了する必要がある:

発達心理学 (3学期制の3単位 / 4学期制の4.5単位)

本講義は、人間の人生全般を網羅したもの、または子ども及び / または思春期の発達に限定されたものでもよい。

異常心理学または精神病理学 (3学期制の3単位 / 4学期制の4.5単位)

本講義は、人格診断、診断及び査定、(最新の)DSM入門といった名称のものでもよい。

人格理論または人格心理学 (3学期制の3単位 / 4学期制の4.5単位)

本講義は、次のような主要な人格理論のうち3つは網羅していなければならない:

1. 精神分析的 / 精神力動的 / 新フロイト派
2. 特性的
3. 生物学的
4. 人間主義的
5. 実存的
6. 行動的 / 社会的学習理論
7. 認知的

集団力動学、または集団療法の理論と実践上級 (3学期制の3単位 / 4学期制の4.5単位)

心理療法上級の例:

- ・子どもへのカウンセリング
- ・プレイセラピー
- ・思春期へのカウンセリング
- ・薬物依存へのカウンセリング
- ・学校カウンセリング
- ・調停と対立 (葛藤) 解決
- ・トラウマからの回復
- ・地域社会でのアクション
- ・様々な対象者へのカウンセリング
- ・家族療法

- ・集団療法
- ・心理教育的グループ
- ・サポートグループ

心理療法上級の科目としてまたは上記必須とされる科目に加えて、文化的能力を確保するために異文化間カウンセリングを取り上げる講義を受講することが大変望ましい。

心理療法における倫理と専門性（3学期制の3単位）

本科目はドラマセラピー科目として選択していなければ必須である。

研究法（3学期制の3単位）

本科目はドラマセラピー科目として選択していなければ必須である。質的または量的研究、または両方を取り上げる科目でよい。

ATカリキュラム：心理学関連科目

心理学の科目については、大学院レベルのもの、または大学高学年レベルのものでなければならない（通常の高等教育機関では、このような科目は300レベル以上となっている）。この特例が設けられる理由は、心理学修士課程では多くの場合、その修士課程に在籍していない者については科目を履修できないことがあるためである。

心理学科目は、最低12単位のみが必須であるが、ドラマセラピストは上記科目の内容すべてにおいて能力を発揮できるようになることを強く推奨する。そのためには、大学・大学院の科目や専門的ワークショップ、職場内のトレーニングといった形での更なるトレーニングの受講を必要とするかもしれない。どのケースにおいても、出席証明及びトレーニングまたは科目概要の記述といった受理可能な書類が必要である。これらはそれぞれに対応して、受講生のAT契約に記録されていなければならない。

心理学関連必須科目の4つのうち、1つのみ自主学習にて受講可能である。自主学習の教員は、修士号またはそれ以上の適切な学位・資格・免許を持ち、過去に認定された高等教育機関において修士レベルの科目を教えたことのある者でなければならない。

心理学関連科目の説明

発達心理学（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

本科目は、家族、社会、文化的背景における個人の一般的な成長について探求する。個人と家族の人生サイクルは、生物学や遺伝学、性別、人種、階級、民族、文化、宗教などの要因から影響される相互作用的な過程とみなされる。個人の発達について、代表的な主要理論的アプローチを含む概論を通して、経時的に辿られる。

異常心理学・精神病理学（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

本科目は、個人の精神病理学を様々な視点から取り上げる:生物学的、発達の、文化的、そして相互作用の。受講生には、DSM-IVTR（または最新版）に提示される一個人の記述的症状学的観点から、また、発達において起きる代表的な事柄や家族のパターン、社会文化的な要因を含む力動的病理学と文脈的観点から、精神病理学を理解するための幅広い理論的基盤を提供する。この幅広い観点の中には、非言語コミュニケーションや物質依存と診断に関わる問題との関わりへの意識をも含む。

人格心理学（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

本科目は、カウンセリングの諸理論の基となる人格理論の基礎を提供する。次の7つの主要理論のうち、少なくとも3つにおいて多角的な観点が概観されなければならない: 精神力動的、特性的、生物学的、人間主義的、実存的、認知的及び行動的／社会的学習理論的。受講生は、行動や精神力動学、社会や文化的背景の理解を通して、これらの理論を臨床に適用する。また、これらの理論の適用を通して、受講生は、クライアントの内的及び対人的在り方の理解を概念化できるように学ぶ。

集団力動学（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

本科目は、グループ理論や実践への基礎的理解を提供する。集団の発展過程や集団におけるメンバーの役割、セラピストの役割、リーダーシップのスタイルと共に、集団の種類やそれぞれに異なる集団の目的、方針、技法などの概念を検討する。また、受講生はリーダーや観察者として交代しながら自らのグループをファシリテートする。

心理療法における倫理と専門性（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

受講生は、American Psychological Association 及び American Counseling Association、加えて／または National Association of Social Workers の倫理綱領の実際上の知識を得る。文献購読において、また、インターンシップにおいて直面した、次のような主要な倫理的・法的事項に焦点があてられる: インフォームド・コンセント、報告義務、多重関係、タッチの適切な使用、HIPPA（医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律）規制、秘密保持（守秘義務）及び児童虐待が疑われる場合などの通報の義務、法律と倫理が相対立する場合にどうするか。倫理の科目の中に、異文化の内容が含まれる必要がある。

研究法（3学期制の3単位／4学期制の4.5単位／授業時間数正味45時間）

量的研究（統計的、原因分析、実験計画）、質的研究（ケーススタディ、記述的、新たなアプローチ、現

象学的、新・間主観的デザイン)、そして研究査定法が提示される。受講生は、既存の研究を批判的に査定し、出版できる社会科学的研究を計画・実施・執筆する能力を培う。文献レビュー、主要概念や仮説の収集及び明示、研究者の思い込みや偏見、被験者の選別、データ収集と解釈、信頼性と妥当性と悪影響や限界、今後の研究への提案が探索される。

スーパービジョンの下でのドラマセラピー・インターンシップ

受講生は、2つの異なる対象者において、少なくとも800時間のインターンシップを終了することが求められる。この中には、以下のものが含まれる:

- ・少なくとも300時間のクライアントと直接関わる時間数
- ・少なくとも30時間のスーパービジョン
- ・最大470時間のクライアントとの直接的でない時間数

300時間のクライアントと直接関わるインターンシップ時間とは、ドラマまたはクリエイティブ・アーツ・セラピーをクライアントに実施した（対面的に過ごした）時間である。これには、話し合い療法の実施、スタッフミーティングや職場内トレーニングの参加、スーパービジョン、運営・管理業務、プランを立てる時間、事務作業を扱う時間は含まない。

300時間の全ては、集団ドラマセラピーであってもよい。最大150時間までは、個人ドラマセラピーでもよい。ドラマセラピーは主に集団療法であることから、少なくともクライアントとの直接関わる時間数のうち半分は集団の場にて実施されていなければならない。個人ドラマセラピーの時間は必須ではないが、病院のようなインターンシップの場において一対一のワークを必要とする場合には、150時間まで適用できる。

300時間のクライアントと直接関わる時間数は、少なくとも2つの異なる対象者にて実施されなければならない。これは、異なる診断を持つ二つのクライアント集団（例えば、物質依存症、うつ病、アスペルガー症候群、アルツハイマー病など）、または異なる年齢集団（幼児、児童、思春期、成人、高齢者）ということである。

30時間のスーパービジョンとは、10時間のクライアントと直接関わる時間につき1時間のスーパービジョンの比率に基づいている。受講生はドラマセラピーの過程を用いることから、公認ドラマセラピストによるスーパービジョンが望ましいが、公認ドラマセラピストが現場にいない場合には、修士レベル以上の認定されたクリエイティブ・アーツ・セラピスト、または認定された精神保健関連の専門家、または特殊教育の教師でもよい。公認ドラマセラピストが現場にいない場合は、ドラマセラピー特有の問題を処理していくために、インターン生は（BCTからの協力を得て）公認ドラマセラピストによる別のスーパービジョンを受けることが望ましい。BCTは、インターンシップのスーパーバイザーとしての役割を取る必要はない。むしろ、受講生は自分のトレーニングにおいて、より多くのドラマセラピーの専門家やスーパーバイザーと接する方が望ましい。

インターン生のクライアントと直接関わる時間数が300時間を超えた場合、10時間のクライアントと直接関わる時間数につき1時間のスーパービジョンの比率は継続されるべきである。30時間以上のスーパービジョンを受けたインターン生は、470時間のクライアントとの直接的でない時間数と代えて、30時間を超えたスーパービジョンの時間数を用いることができる（書類上ではスーパービジョンの時間と

して記される)。

470時間のクライアントとの直接的でない時間数とは、スタッフや治療チームのミーティングの参加、実施したサービスに関する書類作成、今後のグループのプランニング、グループの後片付け、今後の予約の受付、その他現場で求められる事務作業を含む、インターンシップの現場において費やされる事務作業の時間である。その他、職場内でのトレーニングの参加や話し合い療法のみとして指定されたクライアントとの面接も含まれる。このような仕事に充てることのできる時間数は、470時間が最大である。

インターン生が300時間以上のクライアントと直接関わる時間数を終了した場合には、最終的に時間数を数える際には、クライアントとの直接的でない時間数は470時間より少なくなるが、クライアントと直接関わる時間数が10時間増えるごとに、1時間のスーパービジョンが追加されなければならない。

インターンシップの現場を確保することは、受講生の責任であるが、BCTによってその現場が認められなければならない。インターンシップは、有給でも無給（ボランティア）でもよい。

インターンシップの時間数は、「ドラマセラピーの原理」の科目受講以前のものは含まれない。

「ドラマセラピーの原理」を受講している最中、または受講後から取得されなければならない。これは、受講生がクライアントに対して用いる理論や技法について、基礎的な理解があることを保証するためである。本方針の例外については、認定委員会によりのみ承諾される。

認定に必要な1000時間の専門的時間数は、このインターンシップの800時間と同じではない。専門的時間数は、インターンシップの800時間が終了した後でなければ数え始めることができない（インターンシップの800時間以前、または同時にはできない）。更に、専門的時間数は、受講生が修士号取得に必要な科目を全て終了してからでないと数えることができない。専門的時間数の詳細については、巻末の「認定」の項目を参照。

DRAMA THERAPY INTERNSHIP – RECORD OF HOURS

ドラマセラピーインターンシップ – 時間数の記録

STUDENT NAME _____

受講生 氏名

INTERNSHIP SITE _____

インターンシップの場所

ADDRESS _____

住所

POPULATION SERVED _____

対象者

SUPERVISOR NAME _____

スーパーバイザーの氏名

Date 日付	# of Direct Client Contact Hours クライアントと直接 関わった時間数	Supervision Hours スーパービジョ ンの時間数	# of Indirect Service Hours クライアントと直 接関わっていない 時間数	TOTAL HOURS 合計時間数
PAGE TOTALS ページの合計				

Supervisor Signature _____

スーパーバイザーのサイン

Student Signature _____

受講生のサイン

INTERNSHIP EVALUATION

インターンシップの評価

INTERN NAME _____

インターン生の氏名

SUPERVISOR NAME _____

スーパーバイザーの氏名

SITE _____

インターンシップの場所

DATE OF EVALUATION _____

評価の日付

Evaluation Criteria 評価基準	Above Expectations 期待以上	Met Expectations 期待通り	Below Expectations 期待以下
Plans an effective, appropriate lesson / rehearsal plan 効果的かつ適切なレッスン・リハーサルのプランを立てる			
Manages client behavior / maintains order appropriately クライエントの行動をマネージし、秩序を適切に維持する			
Leads group effectively グループを効果的にリードする			
Demonstrates clear and ethical boundaries with clients and staff クライエントやスタッフとの明確で倫理的な境界線を維持する			
Connects one-on-one and develops rapport with group members グループの構成員それぞれと1対1で関係性を作り、ラポールを形成する			
Assesses group needs グループのニーズを査定する			
Addresses group and individual needs through accommodation, choice of technique, and other drama therapy tools グループや個人のニーズを調整することや技法の選択、その他のドラマセラピーツールを通して取り組む			
Asks questions and admits areas of weakness 疑問を投げかけ、自分の弱点を認める			

Seeks feedback and accepts constructive criticism フィードバックを求め、建設的批判を受け入れる			
Takes initiative 主導権を取る			
Takes responsibility / Follows through 責任を取る・最後までやりとおす			
Practices effective listening skills 効果的な傾聴スキルを実践する			
Dresses appropriately 適切な服装をする			
Arrives on-time and prepared to work 時間通りに出勤し、仕事の準備ができています			

1. Please identify strengths that this intern has demonstrated.

インターン生が見せた長所を書いてください。

2. Please identify areas this intern needs to work on.

インターン生がもっと努力しなければならないところを書いてください。

3. Please share your insights / recommendations for further internship experiences and / or areas of study (populations, settings, type of therapeutic set-up, techniques, theories) that you believe would challenge this intern to enhance growth.

あなたがこのインターン生の成長を促すチャレンジと思われる今後のインターンシップ経験や学習分野（対象者、現場、治療的設定の種類、技法、理論など）への提案やあなたの洞察を書いてください。

4. Other comments:

その他コメント

Internship Supervisor _____

スーパーバイザー

Signature

I have read and discussed this evaluation with the above signed supervisor. (*Signing does not indicate agreement or non-agreement with evaluation*) 私は、この評価を読み、上記サインのスーパーバイザーと話し合った。（サインをすることでこの評価について合意したか否かは意味しない）

Intern _____

インターン生

Signature

SUPERVISION VIDEO RELEASE FORM

スーパービジョンのためのビデオ撮影承諾書

I, _____, Print Therapist Name am earning my internship hours for drama therapy while leading the drama group that you are part of. I would like to videotape _____ Number session(s) on the following date(s): _____.

私 (セラピストの氏名) は、あなたが参加するドラマグループをリードしながら、ドラマセラピーのインターンシップ時間数を獲得しています。私は、次の日付けにおける (数字) 回のセッションをビデオ撮影したいと思います: _____。

The tape(s) will be shown to my supervisor so that I may receive feedback and instruction on the work I am doing and become a better group leader. The tape(s) will be used for supervisory (educational) purposes only, and they will be destroyed after use. The tape(s) will not be posted on an Internet site or used for any other professional or personal uses.

このビデオは、私がより良いグループリーダーになるためのフィードバックや指示をもらうために、私のスーパーバイザーが見ることになります。このビデオは、スーパーバイズ (教育) のためだけに用いられ、用いられた後は処分されます。このビデオは、インターネットサイトに投稿されたり、その他専門や個人的理由のために用いられることはありません。

Camera Setup and Location: _____ カメラの設置場所

(Describe where the video camera will be set up in the room and on whom it will focus)

_____ (ビデオカメラが部屋のどこに設置され、誰にフォーカスされるか、説明してください)

I need you to give your permission to be videotaped. If you decline to agree to be videotaped, I will not videotape the group.

ビデオ撮影をしていいという承諾があなたから必要です。もし承諾しなければ、私はグループをビデオ撮影しません。

If you are 18 or over, you can sign this release yourself. If you are under 18 or under the care of a guardian, then you and your parent / guardian will need to sign this release.

If you have any questions or concerns, please call _____ Therapist Name at _____ Phone No

あなたは 18 歳以上であれば、この承諾書を自分自身でサインしてください。18 歳より下あるいは後見人がいれば、あなたの親・後見人がサインする必要があります。

これについて質問や心配事があれば、(セラピストの名前・電話番号) に電話してください。

I, _____, Print Name of Client _____, Print Name of Therapist

to videotape me for supervisory purposes. I understand that this project is for educational purposes only and that the video will be destroyed after it has been used for the purpose it was created.

私 (クライアント氏名) は、(セラピスト氏名) が、スーパーバイズ目的で私をビデオ撮影することを承諾します。この撮影は教育目的のためだけであり、必要目的に使用後は処分されることを理解します。

_____ Client Signature _____ クライアントサイン _____ Date _____ 日付

If client is under 18 or has a guardian, this release must also be signed by that person:

クライアントが 18 歳より下、または後見人がいる場合、親または後見人にサインしていただく必要があります:

_____ Parent / Guardian Signature _____ 親・後見人のサイン _____ Date _____ 日付

_____ Print Name of Parent/Guardian _____ 親・後見人の名前を活字で

NADTA 別ルート・トレーニング (AT) 学習契約

AT 学習契約

全ての AT 受講生は、NADTA に承認された学習契約を結んでいる必要がある。

(署名して NADTA 事務局に提出され、次のことが確認できるものでなければならない) :

- ・ AT 受講生及び BCT の現在の連絡先
- ・ 学士号の情報
- ・ 取得単位数を含む修士号または博士号
- ・ 署名された倫理基準
- ・ 署名された心理療法に関する声明・受講生及び BCT の責任に関する声明
- ・ 必須の心理学関連科目
- ・ 大学院レベルのドラマセラピー科目
- ・ インターンシップの時間数

各科目につき、次の記録が必要である :

- ・ 科目名
- ・ 教授・教師とその所持する学位・資格・免許
- ・ その単位が取得された機関及び場所
- ・ 取得された単位数 (授業時間数正味 15 時間=1 単位) またはワークショップやトレーニングの時間数
- ・ 科目を受講した時期及び終了した日付

各インターンシップにつき、次の記録が必要である :

- ・ インターンシップが実施された機関の名称
- ・ 機関の住所及び電話番号
- ・ スーパーバイザーの氏名及び所持する学位・資格・免許
- ・ クライアントと直接関わった時間数
- ・ スーパービジョンの時間数
- ・ クライアントとの直接的でない時間数
- ・ インターンシップの総時間数 (スーパービジョン+直接的+直接的でない時間)
- ・ 対象者のタイプ
- ・ インターンシップを実施した期間

BCT は、AT 契約を記入する責任を持つ。受講生が記入してはいけない。

BCT は、1年に1回 (最初にサインした日付よりおよそ12か月経過した時) は受講生とともに学習契約を更新しなければならない。契約を更新することで、BCT は毎年次のことを実施する機会を持つ :

- ・ 昨年度終了したワークについてサインをする

- ・次年度に受講生が行うべきワークを計画する
- ・AT 受講生として、本受講生が続けるべきか査定する

注：大学機関を通して終了したドラマセラピーや心理学関連科目については、契約における「大学で修得した」ページに記載し、研究機関や学会、ワークショップなどにおけるトレーニングについては、「大学以外で修得した」ページに記載する。

「大学で修得した」ページは、一般的な単位数（正味15時間の授業時間数＝1単位及び、正味1時間の授業時間数につき2～3時間の宿題や文献購読、日記付け、レポートなどの授業時間外のワーク）を記述するスペースがある。通常、3単位の科目は45時間の授業時間数及び約135時間の授業時間外のワークを含む。

「大学以外で修得した」ページは、時間数及び高等教育機関の単位数に変換し、また、1講義につき様々なトレーニングの時間数を加算する予備のスペースを含む。時間数の計算は、15時間＝1単位という計算に基づく必要がある。15時間未満のワークショップに参加した場合は、時間数を15で割ればよい。例えば、ワークショップが6時間であったならば、0.4単位に相当する（ $60 \div 15 = 0.40$ ）。ワークショップや学会自体の時間数のみ数え、昼食時間や休憩時間は含めない。

契約の作成：NADTAのホームページより、AT契約がワードファイルとしてダウンロードできるようになっている。これはマスターファイルとして使うことができる。新しい契約を作成する場合、BCTはマスターファイルを開き、受講生の氏名として「保存する」とすればよい。これにより、直接入力できる新しいファイルを作成することができ、白紙のマスターファイルは手つかずで残すことができる。また、受講生のファイルに直接情報を入力し、保存し、印刷するとよい。毎年、契約の更新時には、必要に応じてこのファイルを開き、更新することができる。

科目への署名：受講生が1科目を終了すると、BCTはAT契約書に日付と署名をしなければならない。この署名は、受講生及びBCTを保護してくれる。このようにすることで、次年度の契約において受講予定として契約に記載されたとしても、終了されたか途中かの明確な記述が残る。

非常に小さなスペースに多大な情報を入れるためには：契約書に記載されているスペースは、広がるようになっているので、幾つかのワークショップを一つの単位として入れなければならない場合でも、全て入るようになっている。

受講生の各必須項目の終了についての証明などは、受講生及びBCTのファイルに入れておくべきである。BCTは、この契約更新の責任を負い、NADTA事務局にコピーを送付しなければならない。

注：NADTA事務局に契約書がファイルされていなく、今現在NADTAの学生会員でない者は、AT受講生としては認められない。

すでに履修・経験した分の高等教育、トレーニング、職業経験の単位

BCT が、AT の単位として認めた過去の人生経験を、受講生は文書にまとめる必要がある。

すでに履修・経験した分の単位に関する文書は、すべて、申請書類として提出する必要時に備え、BCT および受講生ともに、保管しておく必要がある。

認定可能な過去の人生経験、および文書：

- ・すでに履修した大学院、及び、レベル300台あるいはそれ以上の心理学高等教育の科目学習
 - 教育機関発行の公式成績証明書
- ・すでに履修した大学院、及び、レベル300台あるいはそれ以上の演劇学高等教育の科目学習
 - 教育機関発行の公式成績証明書
- ・すでに履修・経験した研究機関トレーニング、ワークショップ、学会
 - 以下のことを記した、修了証、あるいは、発表者／講師の署名入り文書：
 - －受講生が参加したコース、あるいは活動について
 - －日付、期間（時間数）
 - －指導者の名前、住所、連絡先
 - －受講生がトレーニングを満了したことの表明

－過去の教職経験

- 受講生の名前が講師として記載されているシラバス、および／または講師契約書

BCT の判断において、3単位を上限に、上記以外でも、過去の人生経験が認められることがある。例えば、有給での専門職業経験は、クリエイティブ・ドラマ、ドラマ教育（DIE）、演劇教育（TIE）、あるいは即興の時間として利用できるかもしれない。特定対象群のためのドラマセラピー、あるいは治療的演劇についての事前取得単位は、ドラマセラピー原論を履修した後で、かつ、**適切にスーパーバイズを受けていた場合のみ、カウントすることができる。**

人生経験の時間数と単位の割合は、次に示す時間数未満であってはならない：1単位につき100時間。そのうち、少なくとも45時間は、クライアントと直接かわりながらドラマセラピーを実施する時間。BCT は、適切な文書と根拠を受け取らなければならない。過去の人生経験を単位として認める場合には、このことに特に留意すること。

過去の人生経験の単位は、800時間のインターンシップに用いることはできない。インターンシップの時間は、ドラマセラピー原論を履修した後、あるいは履修中に実施されなければならない。

上記以外の過去の人生経験は、まず最初に認定委員会から承認された場合に限り、換算することができる。人生経験の単位を取得するには、以下の選考資料を提出すること。

1. 人生経験の明確な特性と、AT 要件のどの単位に相当させたいかを記した、受講生本人からの意向表

明書

2. 過去の人生経験の単位承認を裏づける、BCT からの手紙
3. 受講生の履歴書
4. 経験の妥当性を示す助けとなるような書類

現行および今後のトレーニング：BCT と契約をし、その助言のもと実施される現行トレーニングは、以下のよう形で実施される。

1. 大学院レベルの高等教育科目学習やインターンシップ
2. ドラマセラピー、あるいはクリエイティブ・アーツ・セラピーの研究機関
3. ワークショップや学会発表
4. 自主学習
5. スーパービジョンを受けながら、少なくとも2つの対象者と実施する、800時間のドラマセラピーインターンシップ（詳細は23-24ページ（英版18-19）を参照のこと）

Hourly Rate Contract between BCT and Alternative Training Student

BCTとAT受講生間の時間当たり費用契約書

Date (日付) : _____ 月 / _____ 日 / _____ 年

I, _____ print student name, the Alternative Training student, do hereby enter into an agreement with _____ print BCT name as my BCT.

私、 受講生氏名を活字体で は、AT 受講生であり、ここに私の BCT である BCT 氏名を活字体で と、契約をします。

I understand that my BCT will guide me in the learning process of the NADTA Alternative Training Program with periodic evaluations and will annually update my learning contract.

I agree to have communication _____ (times per month) at the rate of \$_____ per hour.

私は、私の BCT が、私が NADTA の AT プログラムで学ぶ過程を指導し、定期的な評価を与え、年 1 回学習契約を更新するというのを、理解しています。

私は、 〇〇 (ひと月あたりの回数)、一時間当たり 〇〇 ドルで、BCT と連絡を取ることに同意します。

I understand that this contract may be terminated at any time by either myself or my BCT. A letter stating the termination of the contract needs to be signed by both myself and my BCT and submitted to the NADTA office, along with the most current contract.

私は、この契約を、私本人あるいは BCT が、いつでも解除できることを理解しています。解除するには、契約終了を明記した文書に、私本人と BCT の両者が署名し、直近の契約書を添えて、NADTA に提出する必要があります。

I enter into this relationship with a commitment to uphold the ethics and values of this profession according to the Ethics Code of the National Association for Drama Therapy.

私は、北米ドラマセラピー学会倫理規定に基づいた、この職業の倫理と価値観を守ることを誓い、以上の契約関係を開始します。

Trainee (研修生) : _____ 研修生の署名

(Trainee Signature)

BCT: _____ BCTの署名


(BCT Signature)

A completed copy of this form should be retained by both the Trainee and BCT.

研修生、BCT とともに、記入された本文書の写しを保管すること。

Example of how to fill out a learning contract (this is fictional!):

学習契約の記入例（これは架空の設定です）

	北米ドラマセラピー学会 別ルート・トレーニング (AT) 学習契約 ドラマセラピーの大学院科目学習 (最低24単位; 1単位の時間数=15授業時間) コースを満了したときは、BCTのサインが必要となる。特別な事情 (自主学習、週末ワークショップ、集中トレーニング) については、最後のセクションに記入すること。

セクション1: ドラマセラピーの大学院科目学習証明書類

1. ドラマセラピー原論 (3単位)

実際の科目名		大学名	
大学以外で修得した科目学習の項を参照のこと			
コース日付	取得単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
以上			

BCTの署名 _____ 日付 日/月/年 _____

2. クリエイティブ・ドラマ/即興演技 (3単位)

実際の科目名		大学名	
大学以外で修得した科目学習の項を参照のこと			
コース日付	取得単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
以上			

BCTの署名 _____ 日付 _____

3. クリエイティブ・アーツ・セラピー (3単位)

実際の科目名		大学名	
アートセラピー		メリーランド大学 (ボルチモア市)	
コース日付	取得単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2004秋学期	3	2004年12月	Aina Nucho, ATR, LSCW-C, Ph.D.
以上			

BCTの署名 _____ 日付 _____

4. ソシオドラマ あるいは サイコドラマ (3単位)

実際の科目名		大学名	
ソシオドラマ		カンザス州立大学 (カンザス州、マンハッタン市)	
コース日付	取得単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2005年夏学期	3	2005年8月4日	Nancy Sondag, MA, RDT/BCT
以上			

BCTの署名 _____ 日付 _____

5. 特定対象群のためのドラマセラピー (3単位)

実際の科目名		大学名	
論文: 刑務所での女性とのドラマセラピー		メリーランド大学 (ボルチモア市)	
コース日付	取得単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2004年秋— 2005年春学期	6	2004年5月15日	Bob Briggs, Ph. D., Committee Chair Randy Mulder, MA, RDT, Committee member
以上			

BCTの署名 _____ 日付 _____



北米ドラマセラピー学会
別ルート・トレーニング (AT) 学習契約

ドラマセラピーの大学院科目学習：大学以外で修得したもの
15時間=1単位

セクション2：ドラマセラピーの大学院科目学習証明書類 / 大学以外で修得したもの

1. 大学以外での科目学習 (自主学習・週末ワークショップ・集中トレーニング、その他)

実際の科目名：ドラマセラピー原論				研究機関/トレーニング開催地
ドラマセラピー原論：2003年NADTA学会、2004年NADTA東地区学会、および自主学習としてBCTに追加の読書およびレポート提出				NADTA (NM州アルバカーキ、NY州ニューヨーク市)、および自主学習
コース日付	時間数	単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2003年11月 - 2004年5月	24+6+15	3	2004年5月	Anne Armstrong, RDT/BCT
以上				

BCTの署名 _____ 日付 日/月/年 _____

2. 大学以外での科目学習 (自主学習・週末ワークショップ・集中トレーニング、その他)

実際の科目名：クリエイティブ・ドラマ				研究機関/トレーニング開催地
クリエイティブ・ドラマ：10年以上の有給での子ども対象クリエイティブ・ドラマ教育経験を、認定委員会により認定される				MD州ボルチモア市およびワシントンDCのさまざまな演劇/アートセンターで実施したもの
コース日付	時間数	単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
1993年 - 2004年	1000以上	3	2004年	認定委員会による認定証書を参照のこと
以上				

BCTの署名 _____ 日付 _____

3. 大学以外での科目学習 (自主学習・週末ワークショップ・集中トレーニング、その他)

実際の科目名：上級選択科目				研究機関/トレーニング開催地
箱庭療法：初級および中級トレーニング				KCプレイセラピー研究所、カンザス州カンザスシティ
コース日付	時間数	単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2005年3月9日 - 11 / 2005年5月6日 - 8	6.5x6日 = 39	2.6	2005年5月9日	Denise Filley, MA, LPC, RPT
以上				

BCTの署名 _____ 日付 _____

4. 大学以外での科目学習 (自主学習・週末ワークショップ・集中トレーニング、その他)

実際の科目名：上級選択科目/特定対象群				研究機関/トレーニング開催地
アルツハイマー型認知症患者とのタイムスリップ法を用いたストーリーテリング				アルツハイマー協会、カンザスシティ
コース日付	時間数	単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2007年10月6日	6	0.4	2007年10月6日	Anne Basting, Ph. D., タイムスリップ法の開発者
以上				

BCTの署名 _____ 日付 _____

5. 大学以外での科目学習 (自主学習・週末ワークショップ・集中トレーニング、その他)

実際の科目名：				研究機関/トレーニング開催地
サイコドラマ週末コース				Psychodrama for Life Institute, NM州サンタフェ市
コース日付	時間数	単位数	終了日	講師名/講師の所持する学位・資格・免許
2003年1月5日 - 6日	12	0.8	2003年1月6日	Will Wuggings, MSW, TEP
以上				

BCTの署名 _____ 日付 _____

休学、中断、苦情、倫理違反、契約解除

科目学習およびインターンシップの修了

BCT は、科目学習やインターンシップが始まる前に、単位を得るために必要な最低条件と、それを満たせなかった場合の結果について、文書化する必要がある。受講生が科目学習、あるいはインターンシップで単位を取得できない際には、BCT は、不十分であった部分について、また改善にむけてできることを、書面にて詳しく説明する必要がある。

BCT は、再履修やレポートの再提出、インターンシップを延長するといったことを通して、受講生が単位取得を試みることで具体的な回数を、文書で明記しなければならない。BCT の単位を与えない基準や理由に同意できないときは、受講生は、教育委員長に懸念事項を解決するための臨時的異議検討委員会を招集するよう、求める権利がある。

中断

受講生は、科目学習やインターンシップの満了を保留し、中断や休学の状態に置かれることがある。心理療法を受けることや、学習障がいあるいは精神疾患の査定を受けるよう勧められるかもしれない。BCT から、クリティカル・ライティングや演劇、演技、また基礎心理学あるいは応用心理学といった、補助的なコースをとることを勧められるかもしれない。そういったいかなる変更についても、NADTA 事務局に書面にて報告する必要がある。与えられた期間内に必要条件を満たせなかった受講生は、契約解除となることがある。

BCT による受講生との契約解除

受講生が、恒常的に、必要となる技能／能力を獲得できない場合や、ドラマセラピーにかかわる現場や環境で、倫理に反したり、専門家としての振る舞いから外れるようなときには、BCT は受講生との契約を解除することができる。未熟さや感情的不安定さもこれに含まれる。このような措置が必要だと感じた場合、BCT は、受講生に対する懸念事項を書き記し、教育的な達成度に基づいた言語表現を使わなければならない。その言語表現というのは、受講生の、理論や概念、技法、技能、知識基盤を実践する能力に言及するものである。受講生の学業状況を評価するときに、臨床的な用語は使うべきではない。例えば、「受講生は日常的に、課題を期限内に終わらせなかったり、宿題の指示に従わなかった」であったり、「レポートやクラスでの取り組みから、この受講生は授業で学んだことや読んだ資料の内容を理解していないことが分かる」、「クラスの半分を欠席したため、科目を落とした」と述べるのは適切である。一方、「受講生には境界例の傾向があり、被害妄想が見られるため、契約解除とする」と書くのは、きわめて不適切である。

注解：AT の契約解除は、いかなる場合でも、受講生の修士課程や博士課程のプログラムに影響しない。BCT は、受講生の高等教育課程からの退学処分を講じる権限をもたない。(受講生が所属するその) 教育研究機関の大学院プログラムのみ、大学院生を退学と処することができる。

受講生による BCT との契約解除

BCTに満足しないとき、受講生は（そのBCTとの）契約解除をすることができる。契約を解除する際には、その旨を記載した文書に両者が署名をし、NADTA事務局に提出しなければならない。その上で、受講生は、主となる指導者／アドバイザーとなる、別のBCTを探すことになる。

注：BCTを変えた場合は、新しいBCTのもとで、少なくとも12単位を取得し、また、クライアントと直接関わる時間数を最少100時間含むインターンシップを一つ、完了する必要がある。

倫理違反

BCTによる倫理違反の可能性について疑義がある際は、受講生は、NADTA倫理規定に記載されているように、NADTA理事会の倫理委員長に異議を提出することができる。

受講生による苦情の流れ

受講生が、AT契約を不当に解除されたと感じたり、あるいは、特定の教育的な問題や異議があるときには、教育委員会委員長あるいは倫理委員会委員長にもちこむことができる。不満は書面で提出されなければならない。NADTA事務局を通して、異議の種類により、教育委員長あるいは倫理委員長に送られる。



Alternative Training Leave of Absence

AT休学届

必要事項を記入の上、NADTA 事務局(1450 Western Avenue, Suite 101, Albany, New York 12203)までお送りください。

AT受講生 郵便先住所 (活字体で記入のこと)

Name: 名前			
Address: 住所 (町名まで)			
City: 市区町村	State/Province: 都道府県	ZIP+4 郵便番号	Country 国名
Home Phone: 自宅電話番号	Work Phone: 職場電話番号	Cell: 携帯電話	Fax: ファックス番号
Email:			Website:

Acknowledgement of Leave 休学期間に関する同意事項

I, _____ am invoking a temporary leave of absence commencing on this date _____ for the period of one year. If for any reason my leave of absence extends beyond this one-year period, I understand that I need to notify NADTA by filing an additional leave agreement with the National Office. I also understand that I can take a maximum of (3) three years total leave before having to re-apply for Alternative Training.

私、_____受講生の名前は、_____月/日/年_____から一年間、一時的に休学します。いかなる理由であれ、この休学が一年を超える場合には、追加の休学同意書をNADTA事務局に提出し、NADTAに通知する必要があることを、私は理解しています。また、ATの再申込が必要となるまで、最大3年間休学できるということについても、理解をしています。

BCTの名前 (活字体で記入)

BCT NAME (Please Print)

BCTの署名

BCT SIGNATURE

日付

DATE

受講生の署名

TRAINEE SIGNATURE

日付

DATE

Termination of Alternative Training Learning Contract (Student Version)

AT学習契約解除届出書 (受講生用)

必要事項を記入のうえ、NADTA事務局までお送りください。

NADTA National Office

1450 Western Avenue, Suite 101, Albany, New York 12203

Alternative Training Student Mailing Address AT受講生 郵便先住所 (活字体で記入のこと)

Name: _____ 名前

Address: _____ 住所 (番地と町名)

City: _____ 市区町村 State/Province: _____ 都道府県 ZIP+4: _____ 郵便番号

Country: _____ 国名

Cell Phone: _____ 携帯電話番号 Home Phone: _____ 自宅電話番号

Work Phone: _____ 職場電話番号 Fax: _____ FAX番号

Email: _____ Website: _____

BCT Mailing Address BCT郵便先住所 (活字体で記入のこと)

Name: _____ 名前

Address: _____ 住所 (番地と町名)

City: _____ 市区町村 State/Province: _____ 都道府県 ZIP+4: _____ 郵便番号

Country: _____ 国名

Cell Phone: _____ 携帯電話番号 Home Phone: _____ 自宅電話番号

Work Phone: _____ 職場電話番号 Fax: _____ FAX番号

Email: _____ Website: _____

Acknowledgement of Termination 契約解除に関する同意事項

I am terminating the Alternative Training Learning Contract between myself and my Board Certified Trainer on this date _____. Should I choose to re-apply for Alternative Training, I understand that I must submit a new contract along with the \$75.00 application fee. In addition, I understand that I must notify the new BCT of my previous contract and complete a minimum of 12 (twelve) credits and one internship of at least 100 direct client contact hours under the new contract. By signing below I am agreeing to the above statements.

私は、私と私のBCTとのAT学習契約を、__月/日/年__をもって解除します。ATに再申請する際には、新たな契約書を75ドルの申請費とあわせて提出しなければならないことを理解しています。さらに、新しいBCTに以前の契約について伝え、新たな契約のもと、少なくとも12単位の取得と、クライアントと直接関わる時間を最少100時間含むインターンシップを1つ、完了する必要があることも理解しています。以上のことに同意したうえで、下記に署名いたします。

Trainee Name (Please Print) _____ 研修生名前 (活字体で)

Trainee Signature _____ 研修生署名 Date _____ 月/日/年

BCT Name (Please Print) _____ BCT名前 (活字体で)

BCT Signature _____ BCT署名 Date _____ 月/日/年

Termination of Alternative Training Learning Contract (BCT Version)

AT学習契約解除届出書 (BCT用)

必要事項を記入のうえ、NADTA事務局までお送りください。

NADTA National Office

1450 Western Avenue, Suite 101, Albany, New York 12203

BCT Mailing Address BCT郵便先住所 (活字体で記入のこと)

Name: _____ 名前

Address: _____ 住所 (番地と町名)

City: _____ 市区町村 State/Province: _____ 都道府県 ZIP+4: _____ 郵便番号

Country: _____ 国名

Cell Phone: _____ 携帯電話番号 Home Phone: _____ 自宅電話番号

Work Phone: _____ 職場電話番号 Fax: _____ FAX番号

Email: _____ Website: _____

Alternative Training Student Mailing Address AT受講生 郵便先住所 (活字体で記入のこと)

Name: _____ 名前

Address: _____ 住所 (番地と町名)

City: _____ 市区町村 State/Province: _____ 都道府県 ZIP+4: _____ 郵便番号

Country: _____ 国名

Cell Phone: _____ 携帯電話番号 Home Phone: _____ 自宅電話番号

Work Phone: _____ 職場電話番号 Fax: _____ FAX番号

Email: _____ Website: _____

Acknowledgement of Termination 契約解除に関する同意事項

I am terminating the Alternative Training Learning Contract between myself and my Alternative Training Student as of this date _____.

私は、私自身とAT受講生とのAT学習契約を、____月/____日/____年____をもって解除します。

Trainee Name (Please Print) _____ 研修生名前 (活字体で)

Trainee Signature _____ 研修生署名 Date _____ 月/日/年

BCT Name (Please Print) _____ BCT名前 (活字体で)

BCT Signature _____ BCT署名 Date _____ 月/日/年

BCT 用の資料（追加）

科目履修可能な場所

別ルート・トレーニング（AT）教育の条件を満たすために利用できる場所は、大学、研究機関、インターネットのコース、学会、ワークショップ、集中講座、自主学習など、たくさんある。受講生や BCT が、AT の要件を満たす適切な場所を見つけられるよう、どのような種類の学習法があるのか、これから数ページに渡って説明する。さらに質問のある場合は、NADTA の教育委員長まで連絡のこと。

AT ドラマセラピー研究機関と大学のプログラム

段階的学習を通してまとまったコースを提供する AT ドラマセラピー研究機関と大学のプログラムは多くあり、これらを利用すれば、受講生は、全ての、あるいはほとんどの教科を修めることができる。そういった研究機関の中には、特定のドラマセラピーや心理療法の方法や体系を用いて、トレーニングをするところもある。これは、受講生が知識と技術を身につける上で、系統だった集中的なカリキュラムを提供できるという点で、価値のある方法だと言える。理想的には、研究機関が独自に強調する考え方や方法があったとしても、この分野の多様な理論、メソッド、そして技法を紹介するような、コースやインストラクターであることが望ましい。

このオプションを選択する受講生は、きずなを育て、トレーニングを続けていくことになる核となるグループの受講生と共に開始することになる。受講生は、BCT の許可を得ればどこでも自由に学ぶことができるのであるが、ここでのねらいは、受講生を、グループの一員として順序だって学ぶことができるプログラムに入れることにある。

多くの研究機関は、大学のような環境ではないため、正規機関プログラムに籍をおいていない AT 受講生は、コース内容の簡単な説明とトレーニングの修了証明とあわせ、時間、場所、トレーニング機関が明記された、署名のある証明書、または手紙などの書類が必要となる。

研究機関は多くの場合、一週末のコース、連続した週末のコース、一週間の講座、あるいは、夜間コースなど、集中的な形式でコースを提供している。集中講義は、一度に多くの時間数を貯めることができる手段である。単位数を計算するには、授業時間数正味 1 5 時間 = 1 単位の計算方法を使うこと。集中講義は、1 日 8 時間を越えないこと。

独自に活動可能な BCT について

BCT は、様々な環境でトレーニングを行う自由がある。研究機関の中でコースを持つ者だけでなく、臨時授業、ワークショップ、自主学習で教え、大学、学会、研究機関、ワークショップなど、他のところでのトレーニングを紹介する者もいる。段階的に学べる研究機関や大学に申し込むか、様々な環境で、色々なインストラクターと受講生と共にトレーニングを受けるかは、受講生の必要性次第であり、それぞれ自分の BCT と相談の上、決定すること。

大学院レベルの科目履修

AT 教育の要件を満たすことができるのは、大学院レベルの科目学習のみである。ただし例外として、心理学とクリエイティブ・ドラマにおいては、(大学での) レベル300台かそれ以上の科目学習でもよい。この例外が設定されたのは、多くのカウンセリングと心理学の大学院プログラムは、特定のコースへ入学しない科目履修生を認めず、学部レベルで科目をとることしか認められないからである。これは、演劇や特別教育で単位を取る受講生にとっては不利なことであり、時に「身動きできない」状態になってしまう。特にクリエイティブ・ドラマは、学部レベルのみでしか履修できないことが多い。

注：可能なかぎり、AT 受講生は常に、大学院レベルの心理学あるいはクリエイティブ・ドラマ科目を履修することが好ましい。

使用されている学術単位システムは、授業時間数正味15時間＝1単位の計算方法に基づく。受講生はBCTに、すべての公式成績証明書を提出する必要がある。大学院レベルの科目は、AT を始める前に取得することもできるし、あるいは、AT をしながら、正規学生または科目履修生として取得することもできる。

通信（遠隔）学習／オンラインコース

多くの心理学やいくつかの演劇の高等教育の科目学習は、インターネットを使って通信（遠隔地から）で学ぶことができる。多くのオンラインコースは、ウェブキャスティングやリアルタイムに行うディスカッショングループ、コースの他の受講生同士、インストラクターと受講生の間、あるいはインストラクターだけと個々にやりとりができるディスカッションのためのスレッドを用意している。実際に参加できる講座の方が好ましいが、オンラインでしか講座を受講できないこともある。しかし、グループ・ダイナミックス、演技、クリエイティブ・ドラマ、サイコドラマ、ソシオドラマなど、実際に自分が参加しなくてはならないコースもある。

大学院レベルのインターンシップ

カウンセリングやソーシャルワーク、あるいはクリエイティブ・アーツ・セラピーといった修士課程プログラムでは、臨床のインターンシップ（研修）が必修となり、プログラムに組み込まれている。インターン生が、すでに、あるいは現行でカウンセリングを施行していたとしても、ドラマセラピーを用いていない場合は、ドラマセラピーに必要な800時間のインターンシップには加算されない。しかしこのインターンシップの時間数は、後にRDT認定申請の中の、「補足的な心理療法のトレーニング」の категорияに使うことができる。（この場合、そのインターンシップは、ATの一部とはみなされない）。もしインターン生がドラマセラピーを施行していて、RDT や公認クリエイティブ・アーツ・セラピスト、メンタルヘルスの認定資格保持者、特別支援教育の教員などによるスーパービジョンを受けている場合、そのインターンシップが、ドラマセラピー原論を履修後、あるいは同時に履修している時であれば、ドラマセラピーインターンシップの時間数として数えることができる。

もしインターン生が、800時間のインターンシップ時間数を獲得したあと、引き続きインターンシップでドラマセラピーを実施しており、かつ、RDT や認定クリエイティブ・アーツ・セラピスト、メンタルヘルスの資格認定保持者、特別支援教育の教員などによるスーパービジョンを受けている場合、その時間数は RDT 認定申請のための「補足的インターンシップ」のカテゴリーに使うことができる。(この場合、そのインターンシップは、AT の一部とはみなされない)。

研究機関での集中講義

集中講義は、一週間(45時間)、延長授業、あるいは夜間クラスなどで、3単位、あるいはそれ以上取得することができる方法である。単位計算には、授業時間数正味15時間=1単位を使用すること。集中講義は、1日8時間を越えないこと。

学会とワークショップ

学会では、大抵1時間半、2時間、3時間などの小さな単位でのトレーニングを提供する。これらは1単位の一部にしかない。一分野で1単位を取得するには、少なくとも15時間のトレーニングが必要である。受講生が学会に全日程参加した場合、15時間から24時間分のトレーニングを修得できる。ドラマセラピー学会での単位は、RDT によるワークショップや、その分野の第一人者によるワークショップへの参加時間を集めることでも取得できる(例えば、フォックス氏やサラス氏によるプレイバックシアターや、TEP によるサイコドラマやソシオドラマなど)。受講生は、ワークショップやプレゼンテーションに出席したという書類を、講師の署名入りで自分の BCT に提出すること。

2日あるいは3日以上週末ワークショップは、1単位と同等となるであろう。単位計算には、授業時間数正味15時間=1単位の計算方法を使用すること。短時間のトレーニング(2~3時間)は、プラスアルファの文献購読やレポート、プレゼンテーション、あるいはインターンシップ作業時に研修内容を適用したことを文書化し、その事例発表をすることなどで時間数を増やし、時間をかけて1単位とすることができる。

自主学習

自主学習での単位は、BCT の判断による。自主学習を通して獲得しうるのは、心理学3単位とドラマセラピーの科目学習3単位である。自主学習は、BCT との契約、(BCT の許可を得た) RDT との契約、またはドラマセラピーのアプローチを専門する、あるいは特定の対象群に従事している資格保持者のセラピストとの契約、で行われる。受講生は、課題図書を与えられ、得た知識を、レポート、プレゼンテーション、加えて/あるいはインターネットを使ったディスカッションボードやスレッドなどで発表するよう求められるかもしれない。ドラマセラピストの仕事を見学したり、ビデオを見たり、パフォーマンスに参加するなど、体験的な要素が含まれることもある。あるいは、ドラマセラピストや特定分野の専門家にインタビューをするということが、含まれることもある。

自主学習は、受講生と BCT の同意の上で決められなければならない、それぞれの課題内容と、最終評価に

対する課題の配点分かるように、書類（シラバスなど）にまとめること。自主学習を、「合格」「不合格」といった形で評価する場合は、どのようにしたら「合格」できるのか、何をもって「不合格」となるのかの明確な評価基準を、シラバスに明記すること。（BCT 以外に）他のメンターやインストラクターが関わる場合は、彼らも学習方法、書類内容、および評価方法に同意する必要がある。

最大で、心理学 3 単位とドラマセラピー 3 単位まで、自主学習として認められる。自主学習が適しているコースもあるが、集団力動学やカウンセリンググループなどの心理学の科目と同様に、ドラマセラピーの科目には体験的学習がトレーニングとして要求されるものがあり、明らかに自主学習に向かないものもある。もし BCT が、ある学習分野における受講生の習熟度評価をする資格がない場合、その資格を持つ人が、評価過程に介在しなくてはならない。以下が自主学習に向く教科の例。（これはあくまでも提案であり、これに限らない）：

- 1 発達心理学
- 2 異常心理学
- 3 人格理論／心理療法理論
- 4 家族システム理論 家族療法理論
- 5 心理療法における倫理と専門性
- 6 ドラマセラピーのための脚本作り
- 7 ドラマセラピーにおける上級理論、リサーチ、アセスメント

RDT/BCT の その他の役割と責任

科目履修のアドバイザー・記録者としての BCT

BCT の最も重要な責任は、AT 受講生への、学術アドバイザー／教務係としての仕事である。BCT は、受講生のニーズにあった教育とトレーニングの機会を与えるなど、最初（入学）から修了（最終契約と推薦状）まで、AT の過程をすべて監督する。

入学選定

スクリーニングは、入学許可の過程で不可欠である。AT 志望者は、大学を卒業していて、大学院に入学許可を得ているか、大学院を卒業している必要がある。スクリーニングには、志望者の基礎的なメンタルヘルスのアセスメントも含む。ドラマセラピストとして実際に勤務できるようになるためには、その個人は、成熟し、現実にしかりと立っている必要がある。受講生がはっきりとした個人の境界線を持っていると、受講生の個人的なことがらで学習過程に入り込むことを防ぎ、クライアントとしての過程が受講生自身の精神的プロセスに入り込むことがない。創造的な遊びの世界に入っていくことができるためには、非論理的で自発的な遊びを気持ちよく行える精神・感情状態が必要とされるからだ。

また、受講生には、ワークの目的を達成するために、直感的現象をゴールや技法につながる構成概念に解釈する力が不可欠である。言語と体験的なインタビューの両方をするとよい。照会先もチェックすること。

学習契約

過去の学習内容の査定 志望者を受け入れると決まったら、BCT は受講生と会い、学習契約を作成する。すでに述べたように、アドバイザーは、過去の経験（大学院の科目学習、ワークショップなど）のうちのどれが、AT の要件として有効であるかを査定しなくてはならない。科目学習は、その名前ではなく、コース内容で評価すること。満たされるべき基本的な条件があり、このマニュアルの中には、単位授与のための査定に役立つ示唆が書かれている。適切な書類を用意し、認定委員会より、過去の経験内容について承認を受けること。

将来の学習計画 未修了の分野を修めるために、これから学んでいく分野を話し合い、確認すること。受講生が、必要な科目学習やインターンシップを決め、また／あるいは自主学習を計画するのを手伝えること。授業や自主学習、インターンシップの機会のために、BCT や RDT、TEP、そのほか特定分野の専門家についての情報を与えること。

幅広いドラマセラピーの技法や方法、個々のセラピースタイルに接するためには、様々なインストラクター、トレーナー、スーパーバイザーが必要である。できるだけ多くの、経験あるドラマセラピストやクリエイティブ・アーツ・セラピストのもとで学ぶことができることは、受講生にとって利点である。これは、AT プログラムの強みでもある。

特に修士号やオンラインコースを提供する高等教育機関がすべて、認定を受けている高等教育の学術機関であることを確認すること。米国内における州が定める認定大学の情報は、以下のサイトにある。

<http://www.utexas.edu/world/univ/state/>

大学の認定評価についての情報がさらに必要な場合は、以下のサイトを参照のこと。

<http://www.collegedegreeguide.com/articles-fr/accredited-college-university.htm>

フィールドワーク、あるいはインターンシップ選定の指導について

BCT には、AT 受講生のために、臨床や学校、その他適切な組織でのインターンシップを斡旋する義務はないが、その環境が、300時間の実践研修の必要条件にあっているか、特定対象群のためのドラマセラピー、あるいはドラマセラピーの上級実践ができる構成になっているかなどの査定をする義務がある。

受講生は、少なくとも二つの異なる対象者と働く経験を持つ必要がある。対象者の区分は、年齢（例えば、児童、青少年、成人）、あるいは診断（人格障がい、薬物乱用、PTSD、スクールカウンセリング、適応障がいなど）、あるいは介入法の種類（初期、二次的、三次的、異文化トレーニング、性的暴行の予防など）による。受講生は、それぞれの対象者の専門家をスーパーバイザーに持つ必要がある。少なくとも2名のスーパーバイザーを持つことが推奨される。

受講生は、特定の対象者と、個人あるいは集団で、何らかの形のドラマセラピーを実践すること。現場でのスーパービジョンは、訓練を受けた臨床専門家が提供すること。もし現場に RDT、CP、あるいは TEP がひとりもいない場合、指定された RDT が定期的にスーパービジョンを行う必要がある。

AT 契約の見直しは、最初の契約がなされた日と同日に、毎年行うこと。BCT は、最新版の書類を NADTA に提出する必要がある。AT 契約書の記入は、受講生ではなく BCT の責任で行うこと。

資料保管の方法：BCT には、受講生の現在の学習契約と、過去に修得した教育およびインターンシップを証明する書類とを綴じたファイルを、保管する責任がある。毎年1月31日までに、最新の受講生名簿を NADTA に送ること。以下のページを参考のこと。

NADTA との連絡係としての BCT

BCT は、AT 受講生の連絡係として北米ドラマセラピー学会との連絡をとる。

- 1、 BCT は毎年 AT 受講生の学習契約書を更新し、NADTA に提出する義務がある。毎年とは、最後の契約書の更新からきっかり 12 ヶ月後のことを指す。
- 2、 BCT は AT 受講生の名簿を、受講生の現状や連絡先住所など更新し、NADTA に毎年 1 月 31 日までに提出すること。
- 3、 BCT は AT プログラムや RDT 申請について、新しい情報を常に知っておくこと。AT の必要条件はドラマスコープの教育コラムで発表される。NADTA 理事会により重要な変更などの決定がなされた場合は、BCT に連絡が行く。このマニュアルは、NADTA のウェブサイトに随時更新されて掲載される。
- 4、 BCT は、毎年開催される NADTA の学会の BCT 会議に出席すること。これが BCT に要求される 1 回の CE サイクルにおける、CE 2 時間分になる。もし BCT がこの会議に出席できない場合、教育委員長に、BCT に課せられる CE 2 時間の取得法について連絡すること。
- 5、 メンターである BCT は、専門家ネットワークの機会および資格認定組織である NADTA に関する、受講生の質問に答えられるようにすること。受講生には、この分野をもっと知ることができるよう、NADTA のウェブサイトを開覧したり、ドラマスコープを読んだり、地域支部に参加したり、他の NADTA 会員に会うといったことを勧めること。BCT が答えられない質問については、適切な NADTA 理事会メンバーや RDT を紹介すること。
- 6、 BCT は、AT 受講生が、NADTA の学生会員になる必要があることを伝えること。
- 7、 BCT は、AT 受講生が、年次学会や地域学会に出席するよう勧めること。
- 8、 BCT は、AT 受講生の擁護者と見なされる。
- 9、 BCT は、AT 受講生の RDT 登録時に推薦状を書く義務がある。(推薦状の見本には、付録ページを参照のこと。)
- 10、 BCT は、RDT の申請書をその AT 受講生と共に確認し、受講生が書類の記入について理解しているか確認すること。BCT が、資格認定の過程について不明瞭な場合は、受講生は 認定解答係 (Registry Answer Person) に連絡すること。(registryhelp@nadta.org) 質問は認定委員会に申請書を提出する前に行うこと。

講師・トレーナーとしての BCT

BCT は、自分がトレーニングを受け、経験を積み、十分に適正があるドラマセラピーの科目を教えることができる(「適正」の定義については、NADTA 倫理規定を参照のこと)。もし BCT が、その分野に十分に長けていないときは、受講生を教えることができる、適切な RDT、BCT、TEP、あるいは、資格を保持する専門家を見つけること。

注意：受講生が、自主学習をする契約をしている場合、授業時間数正味 15 時間が 1 単位になる。授業で学んだことの深い理解のために、文献購読、レポート、特別研究など、授業外での補足学習が必要である。

心理学のトレーニングをうけている BCT（心理学の修士か博士号を持っていて、大学院レベルの認定大学で心理学のコースを教えた経験を持っている人）のみ、心理学の分野を教えたり、自主学習の指導をする資格がある。

履修科目の評価

学んだことを文書で記録するのに必要となる具体的な評価材料と、評価する際の判断基準について受講生と取り決めるのは、BCT の判断による。授業であれ、ワークショップであれ、実践ワークであれ、受講生が出席したということだけでは、受講生がその概念と教えられたスキルを学んだことにはならない。両者が合意できる評価方法を、トレーニング、自主学習、インターンシップが**始まる前に詳しく決めておく**必要がある。これは、コース内容の概説、教授方法、評価法、受講心得や評価の区分（採点尺度など）を文書化したシラバスによってなされる。コースワークは以下の方法で評価される。

授業への参加姿勢：質問する、ディスカッションへの参加、体験学習への参加、他の学生のニーズを思いやる。

文章の質：ジャーナル、レポート、ビデオ、クラス内でのプレゼンテーション、あるいは口頭発表などを通して。

科目内容の理解度：文章と口頭発表で、基本的理論、概念、技法を把握し、応用できるか。

科目全体のできばえ：コースの課題を遂行できたか、コースの内容を明確に、且つ効果的にまとめることができているか、学んだことを説明することができるか。

授業内での具体的な評価は以下の方法を含む。

経験的参加：インストラクターは、受講生が技法を応用する様子を観察する。これは、受講生がそれぞれ、他の参加者に「クライアント」役をやらしてもらいドラマセラピーをリードしたり、演出家の役割をすることによって、見ることができる。

口頭発表：受講生は、理論についてのディスカッションや事例発表、あるいは授業に参加する中での経験的プロセスの分析の中に、修得分野の理解力と応用力を反映させながら、題材の口頭発表を通して、その教科の習熟具合を証明する。

文章記録

レポート：受講生は、学会発表やワークショップの感想を書く。これらのレポートは、基本的には自由な形で書くもので、個人的な感想や、ドラマセラピストとして、プロになるべく成長していく上で必要なことを記すことができる。

ジャーナル (考察日誌)：考察日誌をつけることは、より個人的な文章記録で、基本的には受講生が、客観的に、批判的に、且つ個人の感想を書く能力に焦点が当てられる。受講生たちは、理論や技法を、自分自身の世界観、性格、個人の歴史、そして育っていく意識に当てはめる。

文献レビューまたは書籍の注釈：この種のレポートでは、受講生は、指定図書や文献を読み、理解したことを示すことになる。通常は、資料の正確さと有効性についての評価とともに、書籍の要約を書く形になる。ここでは、書かれていることをただ繰り返すのではなく、受講生の批判的思考が必要とされる。

応用実践レポート：この種のレポートでは、受講生は、理論、意見、および／または技法について述べ、それをインターンシップでの事例や自分がドラマセラピストとして経験した過程に当てはめる必要がある。通常は、理論あるいは技法について論じた上で、事例報告と、個人あるいは集団の目的に基づき、受講生がどのように学んだことを応用し用いていたのか、そして、ワークの有効性の最終的な評価を論じる。文献レビュー、書籍の注釈、応用実践レポートは、専門的な書き方がある。APA (アメリカ心理学協会) のフォーマットを使用すること。

成績：受講生の成績は、合格／不合格、数値形式、A から F、あるいは不可から優のチェックリストでつけることができる。学生たちは、「満了した」という証として、「合格」、「良」、または「C」をとる必要がある。(しかし、受講生は平均点として「B」以上を維持すること。「C」をとることがあってもかまわないが、「B」と「A」を十分にとり、平均が「B」にならなくてはいけない。)

自主学习、集中講義、ワークショップや学会発表の評価

ワークショップには、大学のコースと同じ評価基準を用いることができる。ワークショップでは、受講生が十分に学ぶことができたかどうか、あるいはどう十分に学んだのかの決め手は、受講生の経験についての教師の観察による。

多くのワークショップや学会の指導者は、受講生が出席したかどうかしか気にしないことがある。よって、BCT がトレーナーでない場合、受講生がなにを学んだのかを知るために、きちんと確認する必要がある。これは、学んだことについての口頭試問、レポート、発表、または経験的過程でそれを応用する能力があるかどうかで見ることができる。

特別支援が必要な AT 受講生のための、代替の文章記録法

ADD、ADHD、およびその他学習障がいのある受講生は、抽象的、視覚的、あるいは聴覚による学習方法に対して、運動感覚を伴う学習法を重点的に取り入れて、専門職への道をめざす。学習したことを説明する方法として、ロールプレイは、ドラマセラピーのトレーニングに理想的であるだけでなく、学んだことを統合するのに一番適した方法だと感じる人もいるであろう。図式やチャートを使って情報をまとめる

ことは、視覚を使って学ぶスタイルが合っている受講生に向くであろう。書字障がい、あるいはその他情報出力に難しさがあるために書くことやタイプすることが苦手な受講生には、レポートを書くことよりも、音声で記録をする方が向いているかもしれない。

特別な支援が必要な場合、BCT にそのことを伝えるのは受講生の責任であり、その受講生に適した教育指導、評価、学習の記録方法を見つけるのは、BCT の責任である。

インターンシップ／スーパーバイザーとしての BCT

受講生が、ドラマセラピーのインターンシップ、フィールドワーク、あるいは実習などを行っているとき、実習先にドラマセラピストや、メンタルヘルスの資格のあるセラピストがいない場合、BCT がスーパービジョンを行うことがある。実習先であっても、外部のスーパービジョンであっても、受講生にとっては、多様なスーパービジョンのスタイルや、トレーニング、またグループをリードする方法などを知るために、BCT 以外のインターンシップスーパーバイザーを持つことが好ましい。少なくとも、800時間のインターンシップ時間数に取り組むにあたり、受講生は、二人のドラマセラピーインターンシップスーパーバイザーを持つ必要がある。

事情を考慮し、BCT がスーパーバイザーをしなくてはならないとき、BCT はインターン生の職務を監督指導するために、対象者についての十全な知識や能力を有すること。「十全さ (competence)」の定義については、NADTA の倫理規約を参照のこと。) もし受講生が外部のスーパーバイザーを探さなければならぬ時は、BCT は適切な人物を紹介しなくてはいけない。BCT は、定期的にインターンシップスーパーバイザーと連絡をとり、インターンシップの進行具合を確認し、定期的に受講生の評価を聞くこと。(インターンシップ評価用紙のサンプルは、26-27ページ (英版21-22) にある)

以下の情報は、BCT がスーパービジョンをするときや、スーパービジョンをする他の資格保持のセラピストと連携するときに、役に立つものである。

ドラマセラピーのスーパービジョンは、「経験のある人 (スーパーバイザー) と、監督指導を受ける人 (スーパーバイジー) との間の、相互影響的な過程であり、スーパーバイジーの専門家としての仕事を検証しながら、スーパーバイジーが専門家としてふさわしい行動を獲得することを目指すものである。」(ボイラン、マリー、スコットによる、1995年、p67)

スーパーバイザーには様々な役割がある。

1. ドラマセラピー実践において、(クライアントへの) 直接的サービスのトレーニングを伴う、直接的な臨床のスーパービジョン。
2. 臨床での課題、インターン生と臨床現場の関係、事例発表やスタッフ間のコミュニケーション、文書資料 (クライアントやグループのアセスメント、治療計画書、経過報告) などをチェックする、管理上のスーパービジョン。

3. 倫理規定を守ることを含め、受講生の専門家意識の成長

スーパービジョンのスタイルはたくさんあるが、スーパーバイザーは、受講生が、不安、弱点、プロとして成長していく上で起きる問題などについて話すことができるような、安全、懇切、共感的で、批判しない環境を作ることが重要である。もし受講生が、成功したことばかりを報告し、難しさや疑問について話さない時は、スーパーバイザーは、安全な空間を作る努力をもっとする必要があるかもしれない。強みを強化し、弱みの部分を「成長できる場所」としてとらえ直すことは、受講生にとってもスーパーバイザーにとっても、能力に基づいたポジティブな姿勢を作り上げる。

スーパービジョンのツールとしてのドラマ使用

インターン生の中に潜む「内的批判」がスーパーバイザーに投影されることがしばしばあるが、これはロールプレイを通して導き出し、外在化することができる。役割交換もまた、インターン生の中に潜む「内的スーパーバイザー」を導きだす。インターン生にクライアントのロールプレイをさせ、スーパーバイザーがドラマセラピスト役をやることは、多くの場合、とても役立つ。「タッグチームを組んで」、難しいクライアント、家族、夫婦、あるいはグループとのワークの仕方を探ることも、役立つ方法である。チームで熟考することで、インターン生は、ドラマセラピーのセッションをロールプレイすることができ、残りのスーパービジョンのグループはそれを観察し、終わったあとで感想を述べ合うことができる。

スーパービジョンの段階：フェルドマンとカスロウ（ボイラン、マリー、スコット、1995年）は6つのステージをあげている。

1. **興奮とこれからの不安：**初めてのクライアントやグループでの経験を待ち望みながらも、実体がなく、対抗することが難しい怖れがインターン生を襲う。
2. **依存と同一化：**初期の不安があり、ドラマセラピーという分野にまだ馴染みがない場合、インターン生はしばしばスーパーバイザーに依存する。それは、BCTを理想化することで現れることがある。
3. **活動と継続依存：**インターン生は、少しずつグループと一緒にリードする責任を持てるようになり、ドラマセラピーの直接的介入が出来るようになっていく。インターン生がドラマセラピーの技法を導入できないのは、もはやクライアントのせいではない。
4. **技能の開花と他者の世話ができる：**インターン生は、自分がドラマセラピーを行い、それがクライアントの対象層に、変化や癒しをもたらす効果があることに気づく。
5. **主体性と自立：**インターン生はプロのレベルにまで来ている。スーパーバイザーを内在化し、自分独自のスタイルという感覚を持ち、理論的なアプローチや技法などの好みも現れる。
6. **冷静さと協調関係：**今までのスーパーバイザーが同僚になる。

スーパービジョンの形式

現象的アプローチ：このアプローチはもっとも指示的でない。スーパーバイザーは、インターン生の質問を熟考するように返し、基本的に、自分の中に答えを見つけられるように、成長していく過程をサポートする。このスタイルでは、インターン生が、ただドラマセラピストが提案していることを丸ごと飲み込み、それを繰り返すのではなく、その仕事をより深く理解できることを確実にする。

心理療法的アプローチ：ここでは、クライアントとのドラマセラピー過程における、インターン生の逆転移の現象、思考、感情そして創造などの力動に焦点が当てられる。焦点は、ドラマセラピストとして働くことを妨げるかもしれない、個人的な問題に向けられる。スーパーバイザーとインターン生の両者による綿密なやりとりを伴う、ビデオでの記録、あるいは詳細な過程記録（プロセスノート）が必要となる。転移の性質やステージだけでなく、治療的な内容とそこから派生した象徴的な意味も話し合う。通常は、精神力動的、サイコドラマ的、対象関係論、またその他の深層的モデルがもちいられる。

技術の行動アプローチ：ここでは、スーパーバイザーは、インターン生が習得すべきアセスメント、計画、治療、そして評価技術に描写される、特定の能力の獲得に焦点を当てる。このアプローチでは、インターン生が、幅広いドラマセラピーの手法を、適切に、且つ効果的に使用する能力を示すことができるための力量を増加させることを主眼とする。

チームでの省察モデル：スーパービジョングループを、省察チームと参加者チーム（セラピスト側とクライアント側）に分ける。省察チームは、外部から参加者の様子を観察し、相互に意見交換をすることで（参加者を見ながらではなく）、開放性を促すようにし、参加者たちとの関係性を探査する。省察チームは、セラピスト役として、参加者たちと自分たちとの関係について熟考する。省察チームのメンバーは、新しい別の参加者がセラピスト役になったときは、役割交代できる。

スーパービジョンの場所：現場内、現場外、遠隔

理想的には、スーパーバイザーがインターンシップ先の職員で、その組織の一員であるのが、インターン生には一番ためになる。ここでは、インターン生は助言をうけられる見習いとして、最初は参加者／観察者として関わることができ、徐々に一緒にリードしはじめ、最後に自分のクライアントやグループのリーダーとしての役割を引き継ぐことができる。

可能なかぎり、インターンを実施する実習先機関は、インターン生のスーパービジョン代金を支払うべきである。インターン生は、大抵の場合無給であり、実習先は「無料」で臨床家を持つことができるのであるから、少なくともスーパーバイザーに支払うということが、できるであろう。これが可能でない場合、インターン生は、合意した金額を（スーパーバイザーに）支払わなければならない。

BCT は定期的に、少なくとも一学期に一度、現場スーパーバイザーとインターン生がいる時に実習先を

訪ねるのが望ましい。そうすることで、インターン生が、ドラマセラピーで必要とされる技能要件を満たす臨床ワークを、実習先で得られているかどうかを、確かめることができる。BCT は、インターンを擁護し、潜在的な問題の解決のために手助けをする。

地方のインターン先で学ぶ遠隔地の受講生には、ドラマセラピーを理解し、インターン生のドラマセラピー関連の疑問にすぐに回答できるような能力と資格を有した臨床家による、しっかりした現場でのスーパービジョンが必要である。インターン先や実習先が、外部スーパーバイザーから離れている時、インターン生はセッションの様子をビデオに録画し、スーパーバイザーに送ることができる。複製できるなら、スーパーバイザーとスーパーバイジーが同時にそれを見て、コメントを交換することができる。

ビデオは、インターン生に焦点を当てること。グループのメンバーには焦点を当てず、匿名性を保つよう、できる限りの注意を払うこと。倫理規定によると、ビデオに映るクライアントは同意書にサインする必要がある。この同意書のもとでは、基本的にビデオは、「教育とスーパービジョンの目的のみの」使用に限定される。

もしクライアントが児童である、あるいは十分な理解力がない場合、クライアントの法的代理人に許可書をサインしてもらうこと。音声録画は、明らかにビデオほど効果的ではない。受講生は、セッションが進行する一瞬一瞬の、視覚的、演劇的レベルで起きることと同時に、自分の考えや特定のドラマセラピー介入を選択した理由について、逐語記録をとる必要があるかもしれない。

インターンシップ、フィールドワーク、実習の評価

インターンシップの評価方法としては、自己評価、同僚からの評価、スーパーバイザーからの評価の全てが用いられる。BCT は、自分がインターンシップスーパーバイザーである場合に限り、インターンシップの評価をする。他の臨床家がインターンシップの監督指導をしているときは、そのスーパーバイザーが評価を書面で、BCT に提出する必要がある（書類の例は 26 – 27 ページ（英版 21 – 22）を参照のこと）。

ドラマセラピーのインターンシップやフィールドワークの経験への評価をする際に考慮すべき点は、以下の通りである。

1. ドラマセラピーの理論的アプローチと手法の、インターンシップへの適切な統合
2. プロのドラマセラピストとして、対人関係の技術を伸ばし維持できる
3. 目標設定、計画、あるいは治療方法を見極め、ドラマセラピーの成果を評価する能力
4. 関係づくりと援助技術
5. 報告書作成を含む、文書記録の質
6. 個人、グループ、且つ／あるいはシステム論の、ドラマセラピー過程への応用
7. 事例会議、スタッフ、あるいは心理教育的なプレゼンテーション
8. ドラマセラピーのプロとして自己が発展し、(様々な) 役を演じることができるようになること

典型的な事例発表：個人やグループなどについての文書での事例報告では、インターン生は、BCT が提供したり前もって話し合った、事例発表のアウトラインに従う必要がある。

インターンシップが心理療法あるいはカウンセリング現場である際の基本的要件：

- ・ 指導を仰ぎたい質問事項の要点の描写
- ・ 名前（クライアントの守秘義務のため、仮名を使うことが多い）、年齢、およびその他の重要なデータ
- ・ 照会の理由と照会元
- ・ 主訴
- ・ 以前の治療
- ・ 家族歴
- ・ 教育歴、職業歴
- ・ 入院歴、依存症、自殺企図などを含む、既往歴
- ・ 重要な人物との関係を含む、発育歴
- ・ クライアントの生活において、重要な関係者
- ・ 臨床的査定
- ・ 治療の目標
- ・ 転移－逆転移の過程
- ・ ドラマセラピーの過程
- ・ 確認できる役割
- ・ 確認できるテーマ

事例発表についての追加情報は、付録にある、ニューヨーク州における LCAT 出願者のための「事例検討試験の概要」を参照のこと。

評価者としての BCT

BCT は毎年評価を行い、受講生が AT を続けられるかどうかを、NADTA に書類で報告する。これは、AT 継続の確認となる AT 契約書の更新をすることで、なされる。

この評価の過程の中で、BCT は、受講生が、心理学、ドラマセラピー、およびインターンシップの適切な単位を得ているかどうか確かめなくてはならない。学習契約書のコースやインターンシップに BCT がサインすることが、満了したことの証明になる。

コース、ワークショップ、自主学習、あるいはインターンは、ただ出席するのではなく、満了することで、単位が与えられる。それゆえ、BCT は、受講生が学習経験を開始する前に、「満了」とはどのようなことをいうのかについて、明確なガイドラインを説明すること。他のトレーナーが、ワークの終了時に関わるときは、そのトレーナーは、そのワークを満了したという書類を、BCT に提出しなくてはならない。

BCT が学習契約を取消すことにした場合は、毎年の更新書の代わりに、BCT と受講生がサインをした学習契約解除届出書を、NADTA に送ること。(解除届出書のサンプルについては 39-40 ページ (英版 32-33) を参照のこと。) これにより受講生は、他の BCT を探すことができる。

BCT の指導、トレーニング

BCT が初めて AT 受講生を受け持つときは、もっと経験のある NADTA 教育委員会認定の、BCT 指導者に、指導してもらうことが必要となっている。そうすることで、新人の BCT は、最初の何人かの AT 契約書を記入する際、経験に基づいた監督指導を受けることができる。BCT 指導者は、スーパービジョンの時間として、最低 25 ドルを請求するように決められている。BCT は、方針、手続き、書類について疑問がある場合、NADTA 教育委員長に <education@nadta.org>、認定の要件と方策については、認定情報係に <registryhelp@nadta.org> 意見を求めることができる。

BCT が受講する継続教育(CE)

BCT は、AT の要件や手続きの変更について最新情報を得るために、NADTA が定める CE サイクルにつき 2 時間の継続教育を受けるように要求される。この時間数を稼ぐための一番簡単な方法は、毎年開催される NADTA の学会での BCT 会議に出席することである。この会議では、NADTA の教育委員長が変更について説明し、BCT が経験するであろう問題や困難についてのディスカッションを行う。NADTA の教育委員長は、BCT と NADTA 理事会の連絡係である。彼らは、AT の懸念を NADTA 理事会に伝え、BCT たちの擁護者として務める。もし BCT が NADTA の学会に出席できない場合、NADTA の教育委員長に、継続教育について連絡を取る。教育委員長のメールは、education@nadta.org。

教育委員長は、BCT と電話や対面で、個別に AT の変更項目について見直すことができる。BCT は、AT に関する不明点を質問したり、特定の受講生や契約で直面している問題について話し合うこと。教育委員長に会う前に、BCT は何枚かの AT 契約書を教育委員長に提出し、明確さや内容を見ておいてもらうこと

ができる。そうすることで、BCT は、すべての書類が適切に記入されていることと、受講生が AT 認定書類をきちんと提出していることの確認ができる。

BCT の資格取り消しと一時停止処分

BCT は以下のようなとき、資格を取り消されたり、一時停止処分にされることがある。(1) NADTA 倫理規定を破ったとき、(2) 年間の登録料の支払いを怠ったとき、(3) AT の継続教育単位 (CE) を終了させなかったとき、あるいは、(4) このハンドブックで述べられている BCT の責任に従わなかったとき。

BCT の資格を失うことは、RDT の資格を失うというわけではない。(さらに情報が必要な場合、「審査、異議、倫理違反、契約解除」の項を参照のこと。)

付録

ドラマセラピストとして公認されるための要件

教育およびトレーニングの要件

1. ドラマセラピー修士号

NADTA が認定するドラマセラピー修士号 (MA) プログラム

- ・ New York University (ニューヨーク州ニューヨーク)
- ・ California Institute of Integral Studies (カリフォルニア州サンフランシスコ)
- ・ Concordia University (モンリオール、カナダ)

あるいは

**NADTA 別ルート・トレーニング (NADTA AT ハンドブック参照のこと) および
演劇学／ドラマ／演劇教育、あるいはドラマセラピー関連分野での修士号または博士号**

2. 演劇経験：最少 500 時間

演劇経験は、教育分野、地域、あるいはプロの演劇環境で獲得することができ、演技、演出、脚本執筆、その他演劇への芸術面での関与、あるいはそれらの組み合わせなどが含まれる。この演劇経験は、ドラマセラピー教育とトレーニングにおいては、いつでも獲得できる。ドラマセラピートレーニングとは別に取得した演劇の学位 (学士課程あるいは修士課程) は、500 時間の演劇経験に十分に足るものである。これは、成績証明書によって証明できる。プロとしてや地域における演劇活動は、履歴書や公演プログラムのコピー、記事、また／あるいは照会・推薦状で証明することができる。

3. 専門職としてのドラマセラピスト経験 - 最少 1000 時間

専門職 (プロ) のドラマセラピストとして実施する最少 1000 時間の仕事は、有給あるいは無償でかまわない。この 1000 時間は、1 年以上をかけて行われなければならない。これは 800 時間のインターンシップの時間とは別のもので、インターンシップの時間が完了し、かつ修士課程プログラムが修了してから数え始めることになる。フルタイムのセラピー職の場合、クライアントと直接関わる時間数とその他の時間の割合は、50 : 50 から 75 : 25 が求められる。

ドラマセラピストは、およそ、クライアントと直接関わる時間 10 時間に対して 1 時間のスーパービジョンを受けなければならない。スーパービジョンは、職場において、公認ドラマセラピスト (RDT)、公認クリエイティブ・アーツ・セラピスト、あるいは修士号以上の精神保健または特別支援教育関連の資格をもった専門家が行うことができる。

4. 追加の時間 - 500 時間

追加の時間として、500 時間が必要となる。この 500 時間は、下記のどの領域から得ても構わない。

- ・ プラスアルファの仕事の時間 (1000 時間を獲得した同じ場所でもかまわない)
- ・ プラスアルファのドラマセラピーインターンシップの時間 (800 時間超過分)
- ・ プラスアルファのドラマセラピー、あるいは心理療法のトレーニング (科目学習、他種の心理療法イ

ンターンシップ、学会、ワークショップなどが含まれる)

- ・100時間を上限とする、自分のための心理療法の受診時間

5. 3 通の推薦状

- ・自分の高等教育プログラムの代表、あるいは BCT (AT の場合)
- ・「専門職としてのドラマセラピスト経験 1000 時間」の時のスーパーバイザー
- ・自分のドラマセラピーワークになじみのある、同僚、セラピスト、スーパーバイザー、あるいはトレーナー

6. 学位の成績証明書および／あるいは AT 契約書 (AT 受講生の場合)

7. 演劇経験についての小論文 1 ページ

8. ドラマセラピーに対する姿勢／経験についての小論文 1 ページ

ニューヨーク州で行われた「開業認可・クリエイティブ・アーツ・セラピスト (LCAT)」 出願者用のケース・スタディ試験

これは、ニューヨーク州で働いたりスーパーバイズをする BCT/LCAT に役立つものである。

ウェブサイト：<http://www.op.nysed.gov/catexam.htm>

セクション I：個別情報—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. このクライアントを特徴づける情報が何であるかに関して、一般的な理解があることを実証できる。
2. 出願者のセラピー実践に深く結び付いた特徴の説明を含め、このクライアントについての的確に述べる。
3. このクライアントと出願者との関係の性質と状況について、明確に述べる。
4. このクライアントとの関係の期間と頻度について明確にする。
5. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクション II：主訴—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. 主訴に関して、一般的な理解があることを実証する。
2. クライアントの視点から、主訴について正確に述べる。
3. 出願者の視点から、主訴について、出願者の特定のセラピー形式の視点を参照しながら、正確に述べる。
4. 出願者とクライアントの視点を、区別する。
5. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクション III：バックグラウンド情報—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. バックグラウンド情報に関して、一般的な理解があることを実証する。
2. 主訴と関連する経歴情報を、提示する。
3. クライアントの人生や状況の中で重要な部分を取り上げる。
4. 見立てをするために十分となる経歴情報を、提示する。
5. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクション IV：見立ての形成—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. 見立ての形成について、一般的な理解があることを実証する。
2. 主訴を、見立ての形成の中に組み入れる。
3. バックグラウンド資料を、見立ての形成の中に組み入れる。
4. 十分に、精神的要因を取り上げる。
5. 十分に、対人的要因を取り上げる。
6. 十分に、環境要因を取り上げる。
7. 十分に、民族／人種要因を取り上げる。

8. 十分に、生理学的要因を取り上げる。
9. 見立ての形成に関連づける形で、セラピーにおけるクライアントのふるまいを特徴づける。
10. 見立ての形成をするのに見合う能力があることを実証する。
11. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクションV：診断カテゴリー—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. DSM コードの利用にかんして、一般的な理解があることを実証する。
2. 第一軸診断を取り上げ、選択に対して、説得力のある論理的根拠を提示する。
3. 第二軸診断を取り上げ、選択に対して、説得力のある論理的根拠を提示する。
4. 第三軸診断を取り上げ、選択に対して、説得力のある論理的根拠を提示する。
5. 裏付ける資料と合致した、このケースに適切な見立てを形成する。
6. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクションVI：治療過程—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. 自身のセラピーの理論的基準にのっとり、介入にかんして、一般的な理解があることを実証する。
2. 自身のセラピーの視点から、明確な目標を含めた治療計画を的確に示す。
3. 精神力動的な視点から、明確な目標を含めた治療計画を的確に示す。
4. なされた診断をうけ、適切と思われる治療的介入を選択した論理的根拠を示す。
5. クライアントとの重要と思われるやり取りを述べる。
6. 観察スキルとこのセラピーに特有の技術を、的確に実証する。
7. セクションIVの関連要因にたいしての治療効果について、的確に説明する。
8. クライアントの視点から、治療過程について説明する。
9. セラピーの継続、あるいは終結について、論理的根拠を提示する。
10. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクションVII：治療の成果—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. 治療の成果について、一般的な理解があることを実証する。
2. 治療的作業における患者のふるまいの変化について、説明する。
3. 行動的な成果について説明する。
4. 患者の知的理解について説明する。
5. 患者の行動と知性の統合について説明する。
6. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。

セクションVIII：スーパービジョンに関する事柄—このセクションでは、出願者は以下のことを求められる。

1. 臨床におけるスーパービジョンの活用について、一般的な理解があることを実証する。
2. このケースの問題点について、明確に特定する。

3. それらの問題点に対処するべく、スーパーバイザーのアドバイスを述べる。
4. スーパービジョンが、どのように知識／技術の獲得、あるいは改善の助けとなったかについて、述べる。
5. 明晰に、適切に、そして基準に合致したことばで題材を提示する。